

令和元年度指定
地域との協働による高等学校教育改革推進事業

研究実施報告書
第3年次

福岡県立香椎高等学校

目 次

I	研究の概要	
1	事業実施期間	1
2	指定校名・類型	1
3	研究開発名	1
4	研究の目的	1
5	研究開発概要	1
6	研究開発により期待される効果	2
II	実施体制	
1	管理・運営方法	3
2	運営指導委員会について	3
3	コンソーシアムについて	4
4	カリキュラム開発等専門家について	6
5	地域協働学習実施支援員について	6
6	研究推進委員会について	6
III	研究開発の概要	
1	地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画	7
2	実施内容	8
3	学校設定科目について	60
4	福岡ファッションインキュベータについて	63
IV	研究成果の普及方法	
1	今年度の事績	66
2	今後の予定	66
V	実施による効果とその評価	
1	本校生徒の特長に応じた指導の展開	67
2	目標設定の到達度	72
	※ 目標設定シート	76
VI	本事業の成果と今後の展望	
1	高度な資質を身につけた人材の育成	77
2	カリキュラムの構築	77
3	福岡ファッションインキュベータについて	79
4	福岡のファッション業界を担う人材の育成について	79

I 研究の概要

1 事業実施期間

令和元年6月3日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福岡県立香椎高等学校

学校長名 矢ヶ崎 裕和

類型 プロフェッショナル型

3 研究開発名

ファッション都市福岡「ファイナルディステーションプラン2030」

4 研究の目的

- (1) 行政機関、地元大学、地場産業と協働し、高度な技術を有し、将来、福岡のファッション業界を担う人材を育成する。
- (2) 本校が核となり、「福岡ファッションインキュベータ」を設立し、商品開発から流通・販売までの流れを探究する。

5 研究開発概要

福岡市は成長著しいアジア諸国にわが国で最も近く、経済や文化、環境など様々な分野で緊密な交流を行ってきた歴史がある。今後もアジアの活力を取り込み、アジア市場への一大拠点としてその役割を果たしながら、アジアとともに発展していくことが可能な地理条件に優れたネットワークを有している。しかし、福岡市では人口が増加しているにも関わらず、ファッション業界では東京一極集中による空洞化が進み、地場産業は有能な人材を雇用することができていない。本校の卒業生の中には、地域を愛し、福岡で働きたいという思いはあるものの、希望する雇用がないために福岡での活躍ができない状況にある者もいる。

このような状況を解決するために、高等学校と地元大学、地場産業などが連携・協働して課題改善に取り組むことにより、地元福岡のファッション業界における継続可能な雇用を生み出す好循環が作られると考えた。また、就職後に離職する理由として、理想とのギャップや就業形態への不理解があげられており、自己の能力適性や理想と就職先のマッチングに課題が見受けられる。

そこで、本校が核となり、福岡県、福岡市、地元大学、福岡商工会議所や地場産業等、多様な立場のプロフェッショナル人材を参集したコンソーシアムを構築して各課題の解決策を検討しながら、企業等による支援団体「福岡ファッションインキュベータ」を設立し、商品開発から流通・販売までの流れを探究するとともに、福岡を愛する高度な資質・能力を身に付けた人材を継続的に育成することのできるシステムづくりを行う。また、個人の適性に応じたファッション産業に関する情報を提供することにより、マッチングミスのない、将来活躍が期待される業種の選択が可能になる環境を構築することを目指す。

6 研究により期待される効果

(1) 実践的能力の獲得

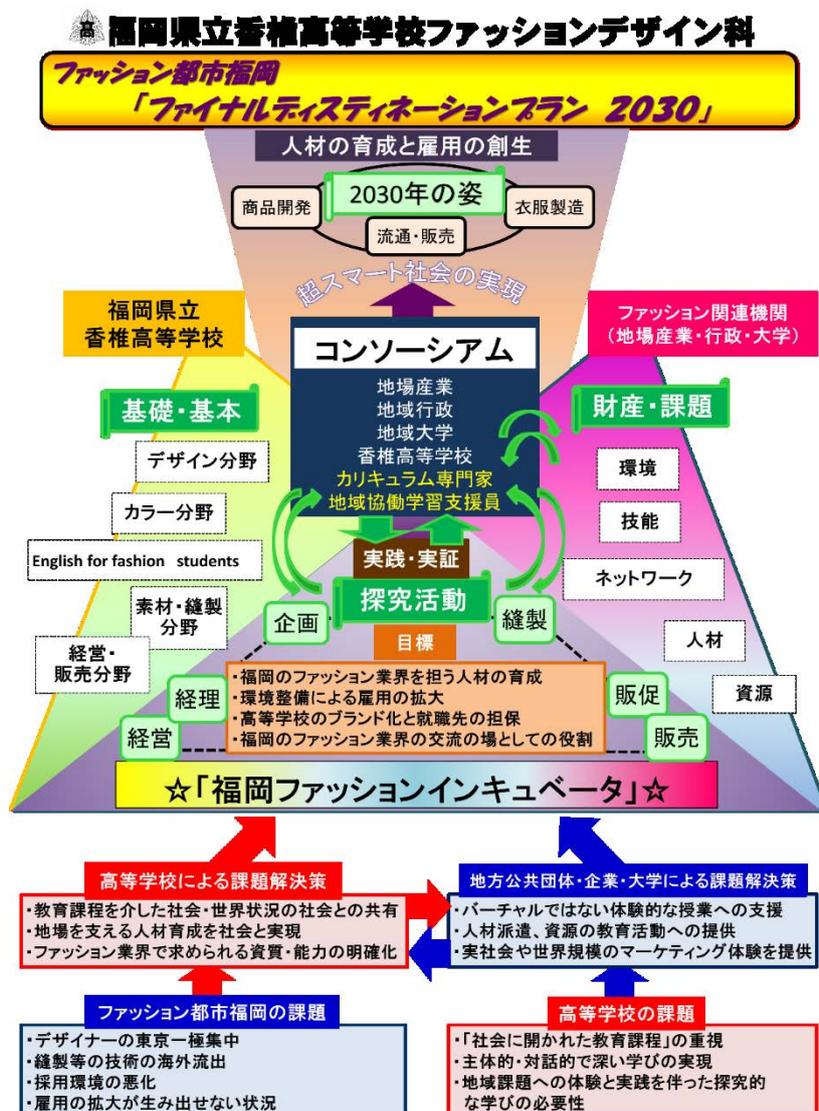
商品の企画から流通・販売まで一貫したアパレル業界の流れを探究し、実際のファッション産業での業務内容による実習を行うことで、バーチャルではない真の実践を体験することができる。

(2) 地域貢献意識を持った人材の育成

「福岡ファッションインキュベータ」を設立し、学校が地元の外部協力機関と協働で経営しながら体験的な授業を実践することで、生徒が地元産業の課題を知り、理解を深め、地元への貢献意識を持った人材を育成することができる。

(3) 適性に応じた職業選択

様々な業種のプロフェッショナル人材から直接指導を受けることで、生徒自身が自分の適性を把握し、職業選択時に発生しうるマッチングミスを防ぐことができる。



II 実施体制

1 管理・運営方法

運営指導委員及びコンソーシアムメンバーからの指導助言をもとに、事業の方向性及び進捗管理を行った。コロナ禍のため、オンラインを活用しながら会議を実施した。

2 運営指導委員会について

本事業の方向性や進捗状況を確認するとともに、専門的な知見から目標達成に向けた指導・助言を得た。

(1) 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職名	役割・専門分野等
坂元美貴子	香蘭女子短期大学 教授 ファッション総合学科長	ファッション教育
横溝紳一郎	西南学院大学 教授	英語教育
大塚 知弘	日本経済大学 教授	経済学
相原 幸子	学校法人文化学園 文化服装学院 学院長	ファッション教育
土岐 幸子	ESMODJAPON	ファッション教育
桂 由美	学校法人滋慶文化学園 福岡ブライダル&ホテル・IR専門学校 名誉学校長	ファッションデザイン
徳満 泰彰	Shopify Japan株式会社 パートナーシップ兼事業開発部 部長	経営・流通支援
三ヶ田浩二	一般社団法人 教育ソリューション研究協議会 認定キャリア教育コーディネーター	キャリア教育
西田 将浩	一般社団法人 進路指導・キャリア教育支援機構 教育顧問	カリキュラム開発
岡本 美加	福岡県高等学校家庭科研究会 会長 (福岡県立折尾高等学校 校長)	研究・広報支援
檜山 芳紀	福岡商工会議所 産業振興部長	研究・広報支援
苗井 章紀	福岡県商工部新事業支援課 課長	部局行政
井手 優二	福岡県教育庁教育振興部高校教育課 課長	教育行政

(2) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年 6月28日 (第1回) ※オンライン会議	報告事項 (1) ファッションデザイン科について (2) FFIの活動について 議事事項 (1) 年間活動概要 (2) 卒業生アンケート結果について (3) 福岡ファッションインキュベータについて
令和4年 1月25日 (第2回) ※オンライン会議	(1) 活動概要 ア ファッションデザイン科の活動 イ 福岡ファッションインキュベータの活動 ウ 成果と課題 (2) 令和4年度福岡ファッションインキュベータについて ア 運営組織 イ 活動概要 ウ 目標設定

3 コンソーシアムについて

「市町村、高等教育機関、産業界等が協働し、コンソーシアムを構築し、高等学校等における地域課題の解決等の探究的な学びを実現する」という本事業の趣旨に沿うような構成になるよう、初年度は6団体であったが、昨年度10団体に拡大した。

(1) コンソーシアムメンバー

所属・職名	氏名
公立大学法人福岡女子大学 教授	森 邦昭
福岡大学 商学部 教授	田村 馨
香蘭ファッションデザイン専門学校 教員 一級婦人子供服製造技能士	内田 智子
一般社団法人 教育ソリューション研究協議会 非認知能力推進育成アドバイザー	長谷川絵美
一般社団法人 進路指導・キャリア教育支援機構 教育顧問	西田 将浩
株式会社ワールドストアパートナーズ 九州沖縄事業所 事業所長	海悦 亮
株式会社 WEBUO 代表取締役	吉田 透
福岡県教育庁教育振興部高校教育課 課長	井手 優二
福岡県立香椎高等学校 校長	矢ヶ崎裕和

コンソーシアムアドバイザー

所属・職名	氏名
福岡市経済観光文化局 国際経済・コンテンツ部コンテンツ振興課 エンターテインメント係長	樋口 隆夫

(2) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年 6月17日 (第1回) ※オンライン会議	■報告 (1) ファッションデザイン科について (2) 福岡ファッションインキュベータの活動について ■議事 (1) 年間活動概要 (2) 卒業生アンケート結果について (3) 福岡ファッションインキュベータについて
令和3年 8月26日 (第2回) ※オンライン会議	■報告 (1) ファッションデザイン科について (2) 福岡ファッションインキュベータの活動について ■議事 (1) ブックオフとのコラボレーション企画について (2) 福岡ファッションインキュベータについて
令和3年 9月30日 (第3回) ※オンライン会議	■報告 (1) ファッションデザイン科について (2) 福岡ファッションインキュベータの活動について ■議事 (1) 福岡ファッションインキュベータについて
令和3年10月27日 (第4回) ※オンライン併用	■報告 (1) ファッションデザイン科について (2) 福岡ファッションインキュベータの活動について ■議事 (1) 福岡ファッションインキュベータ会議について (2) 福岡ファッションインキュベータ運営規約改正について (3) 福岡ファッションインキュベータ主催事業について
令和3年12月23日 (第5回) ※オンライン併用	■報告 (1) ファッションデザイン科について (2) 福岡ファッションインキュベータの活動について ■議事 (1) 福岡ファッションインキュベータの来年度以降の運営について
令和4年 1月13日 (第6回) ※オンライン併用	■報告 (1) ファッションデザイン科の活動について (2) 3年間の活動概要 ■議事 (1) 令和4年度以降の福岡ファッションインキュベータの活用について (2) 令和4年度以降の福岡ファッションインキュベータの運営について (3) その他



第1回コンソーシアム会議 (オンライン)



第4回コンソーシアム会議 (オンライン併用)

4 カリキュラム開発等専門家について

- 公立大学法人 福岡女子大学 国際文理学科教授 森 邦昭 氏

地域貢献につながるカリキュラムの開発に繋げるために、1年次から実践的・発展的に学べる探究活動を実践し、教科・科目等横断的カリキュラムの開発に関する、指導・助言を得た。

5 地域協働学習実施支援員について

- (一社法)教育ソリューション研究協議会 非認知能力育成アドバイザー 長谷川 絵美 氏

キャリア教育に係る教材の開発及びこれを使用した教育支援活動を数多く手がけており、商品企画演習や商品企画実習の探究的な学習活動のファシリテーションに関わる業務を行うなどの協力を得た。

- 株式会社WEBUO 吉田 透 氏

数多くの地元企業や行政機関等との関わりが深く、コンサルティングのキャリアを持っており、流通販売に関する探究的な学習活動のファシリテーションに関わる業務を行う等の協力を得た。

6 研究推進委員会について

月1回実施し、校内で事業の進捗状況を共有し、コンソーシアム会議等で得られた指導助言を実際の教育活動の中で効果的に実践するための方法を検討し、実施へと繋げる役割を果たした。

氏名	所属・職名	備考
矢ヶ崎裕和	香椎高等学校・校長	研究の管理運営
高木 浩信	香椎高等学校・副校長	研究の企画及び運営
松尾 勝之	香椎高等学校・教頭	研究の企画及び運営
國廣美佐子	香椎高等学校・事務長	研究の会計管理
後藤 薫	香椎高等学校・事務主査	研究の会計管理
伊原 豊	香椎高等学校・主幹教諭	研究の推進及び工程管理・教務全般
西嶋 祐子	香椎高等学校・教諭	研究の推進及び工程管理・学科主任
下山 清美	香椎高等学校・教諭	研究の推進及び事業企画
福原 操織	香椎高等学校・教諭	研究の推進及び事業企画
安永 久子	香椎高等学校・教諭	研究の推進及び事業企画
江口 潤	香椎高等学校・教諭	研究の推進及び事業企画
松尾 澄江	香椎高等学校・常勤講師	研究の推進及び会議資料管理
武富 香澄	香椎高等学校・実習助手	研究の推進及び会議運営
宮崎 凡恵	教育庁高校教育課・指導主事	研究の助言及び評価

III 研究開発の概要

1 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

本校は平成28年～30年度にスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）の研究指定を受けて「郷土の一級品に触れる実習・体験活動」「世界のファッション文化を学ぶ海外研修」「福岡発ファッションイベント企画運営実習」「English for fashion students」の4つの柱からなる、本校独自の産学接続型教育プログラムを開発し実践してきた。また、毎年、外部講師を活用した特別授業や校外学習を実施しながら、将来ファッション業界で活躍できるプロフェッショナル人材の育成を行っている。

本事業では、「福岡ファッションインキュベータ」を設立し、学校が地元の外部協力機関と協働で運営しながら、福岡を拠点にグローバル社会に対応した、バーチャルでない体験的な授業を実施することで、将来ファッション業界で活躍できる人材を育成することを目指した。また、「福岡ファッションインキュベータ」を活用し、プロフェッショナル人材から直接指導を受けることで、職業観を高め、就職の際のマッチングミスを防ぐこともねらいとしている。また、地元の外部協力機関と連携・協働することで、生徒が地元産業についての理解を深めるとともに、地元への貢献のあり方を考えるきっかけとなると考えた。

事業の実施計画は、下表のとおりである。

1年目	<ul style="list-style-type: none"> ○専門的職業人の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・1年次のカリキュラム開発と授業研究及び実施 ○「福岡ファッションインキュベータ」設立に向けての協議 <ul style="list-style-type: none"> ・インキュベータ概要 ・理念、目的、ビジョンの検討 ・組織検討 ・事業スケジュール検討 ・協力機関の募集
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ○専門的職業人の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・1年目に開発したカリキュラムの検証と改善及び実施 ・2年次のカリキュラム開発と授業研究及び実施 ○「福岡ファッションインキュベータ」設立に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・事業スケジュール立案 ・協力機関の募集
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ○専門的職業人の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・2年目に開発したカリキュラムの検証と改善及び実施 ・3年次のカリキュラム開発と授業研究及び実施 ○「福岡ファッションインキュベータ」設立及び事業開始 <ul style="list-style-type: none"> ・事業スケジュール立案 ・協力機関の募集

当初、3年目に福岡ファッションインキュベータを設立する計画であったが、事業終了後、福岡ファッションインキュベータを円滑に運用していくためには、3年目を試用期間と捉え、実際に運用しながらカリキュラムの開発を行った方がよいと考え、予定を前倒しにして2年次の11月に設立した。

設立時は6団体であった協力機関も、順調に数を増やし14団体にまで拡大することができた。今年度は、これらの協力機関にご支援いただきながら、どの時期に、どの科目で、どのような学習活動を実践していくかについて検討してきた。

2 実施内容

(1) 特色ある教育活動について

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、可能な限り特色ある教育活動を実施した。さまざまな制約はあったが、福岡県教育委員会による社会人特別講師招聘事業や、昨年度設立した福岡ファッションインキュベータを活用しながら、多くの特別授業等を実施し、新しい取り組みにも挑戦することができた。

令和3年度 香椎高等学校ファッションデザイン科 特色ある教育活動一覧

実施日		実施内容	実施学年	実施科目	実施実績	
					令和2年度	令和元年度
4月12日	月	ウォーキング④	3年	ファッションデザイン	中止	4月19日
4月14日	水	ファッションショー結団式	全学年	*	7月29日	4月17日
5月10日	月	ウォーキング⑤	3年	ファッションデザイン	中止	5月10日
5月13日	木	トレンドセミナー(オンライン)	3年	ファッションデザイン		
5月21日	金	ANREALAGEセミナー(オンライン)	2年	服飾文化		
5月22日	土	ヘアアレンジ・メイクアップ講座	3年	ファッションデザイン	9月12日	5月11日
6月18日	金	ファッション画の基礎的画法①	1年	ファッションデザイン	7月31日	6月14日
6月26日	土	ファッションショー実習	3年	ファッションデザイン	9月19日	5月25日
7月1日	木	パターンメイキングテクニック	2年	ファッション造形	9月24日	6月13日
7月8日 ～9日	木 金	第71回常磐祭 ファッションショー	全学年	*	10月11日	6月7日 ～8日
7月16日	金	ファッションショー解団式	全学年	*	10月14日	6月12日
7月26日	月	箱崎JKプロジェクト合同企画会議①	2・3年	*	7月22日	
8月4日 ～6日	水 金	インターンシップ	3年	課題研究		5月 ～11月
8月20日	金	アパレル企業現場見学	3年	課題研究		
9月10日	金	箱崎JKプロジェクト合同企画会議②	2・3年	*	9月11日	
10月7日	木	箱崎JKプロジェクト合同企画会議③	2・3年	*	9月25日	
10月9日	土	トラックフェス2021(オンライン)	2年	総合的な探究の時間		
10月12日	火	業界セミナー	1年	生活産業基礎		
〃	火	世界のファッション文化(オンライン)	2年	服飾文化	9月18日	10月29日
10月13日	水	eコマースの運営に関する実務について	3年	ファッションデザイン	10月29日 11月2日	
10月15日	金	色彩講座①	3年	課題研究	9月25日	10月18日 10月25日
10月23日	土	創立100周年記念式典生徒研究発表	3年	*		
10月26日	火	箱崎JKプロジェクト合同企画会議④	2・3年	*	10月28日	
10月27日	水	商品企画に関する特別授業	3年	ファッションデザイン	10月14日	6～7月
10月30日	土	全国産フェア(埼玉大会)発表	3年	*		
10月31日 ～ 11月4日	日 木	研修旅行	2年	*	12月14日 ～ 12月17日	1月8日 ～ 1月14日

実施日		実施内容	実施学年	実施科目	実施実績	
					令和2年度	令和元年度
11月5日	金	ファッション画の基礎的画法②	1年	ファッションデザイン	12月4日	11月29日
〃	金	色彩講座②	3年	課題研究	10月23日	11月8日
11月6日	土	キルト&ハンドメイドフェアファッションショー	3年	*		
11月7日 ～ 12月26日	日 日	箱崎JKプロジェクト展示・物販 ※2月28日迄延期	2年	総合的な探究の時間	10月15日 ～ 3月31日	
11月12日	金	ビジネスマナー講座	3年	課題研究	11月27日	11月13日
〃	金	色彩講座③	3年	課題研究	10月31日	11月15日
〃	金	学科集会	全学年	*		
11月14日	日	アイランドアイ文化祭(作品展示)	2・3年	ファッション造形		
11月25日	木	箱崎JKプロジェクト合同企画会議⑤	2・3年	*	11月27日	
12月1日	水	郷土の一級品に触れる実習・体験活動	1年	生活産業基礎	10月26日	7月24日
12月3日	金	ドレーピングの基礎講座	2年	ファッション造形	12月2日	11月27日
〃	金	色彩講座④	3年	課題研究	11月27日	11月29日 12月7日
12月5日	日	商品企画実習に係る写真撮影	3年	ファッションデザイン	11月8日	
12月11日	土	箱崎JKプロジェクトファッションショー	3年	ファッションデザイン	12月18日	
〃	土	愛媛県立小松高等学校との交流会	3年	*		
12月18日	土	色彩講座⑤	3年	課題研究	12月12日	12月14日
12月22日	水	デザイン発表会	2年	ファッション造形	12月22日 23日	12月17日
12月19日	日	FFI Online Fashionday 2022	3年	*		
12月24日	金	平岡・縫製仕様書の基礎講座	2年	ファッションデザイン	2月19日	2月21日
〃	金	3DアパレルCAD特別講座	2年	生活産業情報	2月19日	12月25日
1月13日	木	商品企画に関する特別授業	2年	ファッションデザイン	中止	2月19日
〃	木	ファッション造形の応用と展開	3年	ファッション造形	中止	12月10日
1月18日	火	ウォーキング①	2年	ファッションデザイン	1月12日	1月23日
1月19日 20日	水 木	小高連携事業(中止)	2年	*	中止	2月20日 2月25日
1月20日 ～25日	木 火	卒業作品展(校内)	3年	ファッション造形 服飾手芸・課題研究 ファッションデザイン	1月21日 ～26日	1月14日 ～23日
1月21日	金	課題研究発表会	全学年	課題研究	1月22日	1月24日
1月25日	火	デザインの発想と展開(基礎)	1年	ファッションデザイン	2月2日	1月30日
1月26日	水	オンライン研修	2年	コミュニケーション英語Ⅱ		
1月31日	月	美しい姿勢	1・2年	ファッションデザイン	3月3日	2月26日
2月2日	水	接客に関する特別授業	1年	生活産業基礎		
2月15日	火	芸術鑑賞(中止)	2年	*	2月24日	8月9日
2月17日	木	進路ガイダンス(中止)	全学年	*	2月10日	2月19日
2月18日	金	ウォーキング②	2年	ファッションデザイン	2月1日	2月5日

実施日		実施内容	実施学年	実施科目	実施実績	
					令和2年度	令和元年度
2月25日	金	色彩に関する特別授業（ネイル）	1年	ファッションデザイン	2月19日	2月20日
2月25日	金	箱崎JKプロジェクト合同企画会議⑥	2・3年	*	1月26日	
3月14日	月	ウォーキング③	2年	ファッションデザイン	3月4日	3月5日
3月22日	火	メイクアップ・ヘアアレンジ講座	2年	ファッションデザイン	3月26日	3月25日
3月23日 ～4月3日	水 日	校外での作品展	3年	ファッション造形 課題研究 等		2月23日 ～24日

表に令和元年度と2年度の実績も掲載している。多くの教育活動は年間指導計画に位置づけられ、計画的に実施をすることができているが、新型コロナウイルス感染症の拡大により海外研修旅行をはじめとして多くの教育活動が中止や変更を余儀なくされた。今後、状況が改善し実施可能となった際には、実施時期や実施方法等について十分に検討しながら実践していきたい。

コロナ禍で実施ができなかった主な教育活動

- ・ 海外研修旅行
- ・ インターンシップ（課題研究）
- ・ 体験入学でのファッションショー
- ・ 東京ガールズコレクション運営実習
- ・ 和装コーディネート実習
- ・ ファッション版イングリッシュキャンプ
- ・ 校外でのファッションショー
（博多灯明ウォッチング、イオンモール香椎浜、香椎宮等）

(2) 商品企画演習（さをり織り）

本校では3年生が商品企画実習として企画・製作した商品をECサイトで販売することにより、アパレル業界の仕組みを実践的に学んでいる。商品企画実習の開始前に、昨年と同様「さをり織りで商品を作ろう」というテーマで演習を行い、商品開発の流れを確認した。



「さをり織りを使った商品開発について」
実際にさをり織りに触れながら話し合う様子

①企画書の作成

はじめに個人で考えさせた企画を、ワークシートにまとめさせた。共通のターゲット層を設定した生徒でグループをつくり、それぞれが記入したワークシートを使い意見を交換しながら、商品を企画した。設定したターゲットの現状やニーズを考え、出し合った意見の中から最も適した企画案を選び、さらに流行や実際に販売されている類似商品などの調査を行い、よい商品になるように改善した。

②プレゼンテーション準備

プレゼンテーション準備を行うにあたり、今年もPREP法を活用させた。プレゼンテーションに使用する発表資料は、A3の白紙に、自分たちが企画した内容を自由にまとめさせた。文章による説明ではなく、絵やグラフを多く用いて視覚的に理解しやすいものになるように指示をした。

また、企画内容に説得力を持たせるため、アンケートを実施したり、ターゲット層の流行を調べたりするなど、根拠となる情報の収集を行い、発表内容に取り入れるよう指導した。

③プレゼンテーション

PREP法を用いて、それぞれのグループの企画を提案させた。提案後は質疑応答を行い、評価シートを使って相互評価を行った。質疑応答では、消費者の視点から値段や規格等についての質問や意見が多く出されていた。評価シートでは「調査分析力」「独自性」「価値性」「説得力」「プレゼン力」の5つの項目について5段階で評価し、それぞれの提案内容について、コメントを記入させた。



プレゼンテーションの様子

評価規準	調査分析力	独自性	価値性	説得力	プレゼン力
	ターゲットのニーズを把握した提案であるか	既にあるサービスでは解決できないことを解決できるか	単なる思い付きでなく、お客様が買いたくなる商品であるか	裏付けがあり、説得力があるか	限られた時間の中で分かりやすく伝えられているか

④ブラッシュアップ

相互評価後、自分たちの提案に対する評価やコメントを分析し、企画内容をブラッシュアップしていった。評価が低かった部分を中心に企画内容の見直しを行った。デザインをアレンジし独自性を高めたり、データを収集し説得力を高めたり、それぞれのグループで提案内容を見直した。発表方法を

改善する班も多く、話し方や言い回しが上手な班を参考に工夫する生徒達も見られた。また、カラー展開の提案にはカラーカードを用いたり、商品の大きさや機能性を伝えるために画用紙で見本を作成したりして見せる班もあった。

ブラッシュアップ後に、2度目のプレゼンテーションを行い、前回同様、評価シートを使って相互評価を行った。



プレゼンテーション、質疑応答の様子

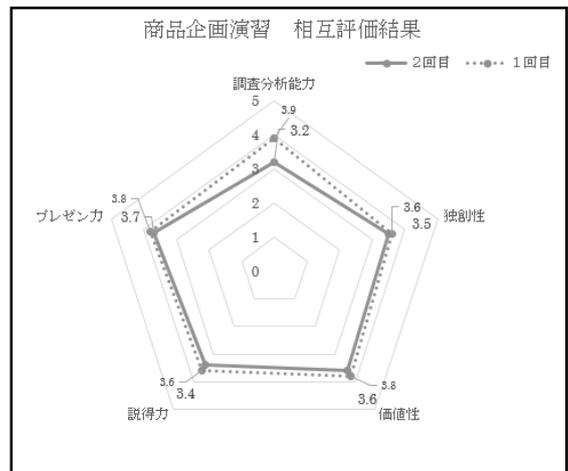


ブラッシュアップ後の発表用資料

⑤リフレクション

プレゼンテーション後の相互評価内容を分析した。それぞれの班を各項目毎に5段階で評価し、平均を出したものが右図である。1回目に比べ2回目の評価が全体的にやや低めであった。生徒の感想を見ると、他の班の発表を見たことで、1回目に比べ発表内容に求める基準が上がったことが原因と考えられる。

また、商品企画演習の終わりに自己評価を行った。情報収集を行い説得力を持たせることの大切さや、消費者目線を取り入れた商品を企画する必要性に気付くことができたようであった。



【商品企画に関する特別授業】 ～ブランド開発に向けた商品開発・流通・販売までの流れ～

次年度から、学校設定科目「ファッションビジネス」を新設し、3年次に実施していた「商品企画演習」を前倒しにして2年次に実施する予定であることから、教育ソリューション研究協議会の長谷川絵美氏と東山愛氏を講師として、2年生の生徒を対象に、「商品企画の進め方について」というテーマで、特別授業を実施した。



系列会社であるカンコー学生服が実際に取り組んだ「セレクト制服」を例に挙げ、商品企画の流れや、マーケティングの基本の一つであるターゲット調査の重要性について説明いただき、ターゲット設定の演習を3つ行った。

演習① 既存の商品を分析する

「泡で出るシャンプー」を例に、どんな人をターゲットにした商品なのか、どんなニーズ・課題に対応しているか、それに対してどのような工夫がされているかについて考える活動をグループごとに行った。生徒達は、泡で出るシャンプーにどのようなメリットがあるのか考え、そこからターゲットや効果を考えていた。

演習② 新商品をつくってみる

ターゲットを20代女性、30代男性、50代女性の3層に分け、それぞれどのようなニーズ・課題があると想定されるか、また商品にどのような工夫が必要かをグループごとに考え、新商品のシャンプーを考えさせた。生徒はターゲットの年齢と性別にあてはまる身近な人物を例に、様々なニーズを想定した。その際、実現可能か、既存の商品があるかなどは気にせず、自由な発想が出るよう声掛けをした。



生徒の意見（ターゲット：20代女性）

- ・香りカプセルをいっしょに売り、混ぜて好みの匂いにできる。
- ・ヘアアレンジを楽しめるよう、髪を早く伸ばす成分が入っている。
- ・ヘアカラーが落ちにくいシャンプー。

演習③ どんなスキルが必要か考えてみる

新商品開発シートを用い、個人でシャンプーの新商品考えた。まず生徒達は、ターゲット層を自由に決めペルソナを設定し、何に困っているか、それはなぜかを考えた。それらの悩みが解決できる商品を考え、班で意見交換を行った後、数名発表を行った。演習②の活動後ということもあり、常識にとらわれない高校生らしい発想で商品を考えることができていた。



シャンプーの商品開発について考えてみよう。

ターゲット

旅行に行く人

どのように困っているか
(ターゲットが望むものや悩み・ニーズ)

旅行に行く時にトワペル用を費したり
箱を変えたりして、ポーチケースに入れる
けど、その時に気にしなくてはいけない
「痛み」とか、かさばったりする。箱を変え
てもよしめんどう...

それはなぜか (原因と思われること)

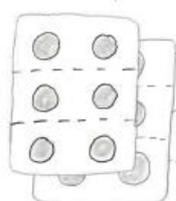
シャンプー用器のフタが重かったり、締め口が
ゆるい。泊まる日数分ばかりの量より
多く持てていきすぎる。

商品名

錠剤 シャンプー
トリートメント

ターゲットの望むものや悩みを解決する為の商品の特徴
(自分らしいアイデアは何か)

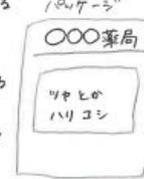
オマケ



わう



- 1+1回分のシャンプーとトリートメントがセットで
切り取り線が付いたものに包めることができる
- 国形タイプなので、お風呂の洗面台に
お薬が入っている
紙の包材を
イメージ →
- 軽い! 出しやすい!
- 錠剤のように出せる



最後に、ワークシートを用い、商品を企画するにはどのようなスキルが必要なのかの説明を受けた。対象の商品についての知識はもちろん、ターゲットを設定する際の想像力や観察力、解決策を導くために、問題解決力や論理的思考力などの、様々な力が必要であると理解することができた。

<生徒の感想>

- 3年生での商品企画では、自分の好みではなく「誰かの役に立てる商品」を考えたい。そのために日頃から周りを観察する力を身に付けていきたい。
- 1つの商品を作るまでの過程で多くの人に関わり、たくさんの思いや工夫があることが分かった。
- 商品を誰かのために開発することに凄く夢を感じたが、売れることも考えながら企画するのは難しそうと思った。
- とにかく売れるには誰でも使いやすいものが良いと思っていたが、ターゲットを絞り分析することの大切さを知った。
- 今回の演習では想像だけだったが、来年度はそれを形にして販売するので、しっかり分析や検証を行って、価値のある商品を作っていきたいと思った。

(3) 商品企画実習

本校では3年前から「CONNECT」 というブランド名で商品の企画から製造・販売まで生徒たちの手で行っている。「商品企画演習」で商品開発の考え方について学んだ後、販売する商品の準備に取り掛かった。コロナ禍で、昨年と同様に集客を伴うイベントの実施の目途が立たなかったため、オンラインのみでの販売を想定して、下表の手順で実施した。

	学習内容・活動	学習形態
①	ターゲットの検討	一斉
②	①で出た案毎にグループを編成し、商品企画の提案をまとめる ※「ターゲット」を設定し、「ニーズ」「課題」をまとめ、「コンセプト」や商品のイメージをまとめる	グループ
③	②の提案をクラス内で発表し、投票で最も良い提案を決める	一斉
④	決定した提案をベースに、クラス全員で「ターゲット」・「課題」・「ニーズ」を検討し「コンセプト」をまとめ共有する	一斉
⑤	④でまとめた内容をもとに、デザイン（デザイン画）を提案する	個人
⑥	クラスで投票し、票数の多かったデザインを採用し製作するアイテムを決定する → 製作するグループの編成・係分担	一斉
⑦	デザイン案をブラッシュアップ	グループ
⑧	製作準備	係別
⑨	⑦の案をもとにサンプルを製作	グループ
⑩	サンプル検討会（グループ毎にサンプルについて発表）実施 ※他のグループの発表を聞き、意見を出す	一斉
⑪	⑩で出た意見等を踏まえて、デザインをブラッシュアップ	グループ
⑫	サンプルの改良版を製作	グループ
⑬	縫製仕様書の作成	グループ
⑭	商品製作	グループ
⑮	コレクション実施	*
⑯	販売準備（ECサイト掲載文・写真等準備）・広報活動準備	グループ
⑰	発送準備	グループ
⑱	振り返り	個人

昨年度は「売れる商品を製作する」という目標を掲げ実習を行った。反省としては、在庫を抱えずに済むと考えて受注生産にしたが、材料の仕入れの見通しを立てることができず、材料調達に苦労したことと、販売価格に原価を反映させておらず、利益を生み出すという経営の視点に欠けていたことが挙げられた。そこで、今年度は初めに資金を提示し、その資金内で商品を製作し「利益をあげる」ことを目標とした。

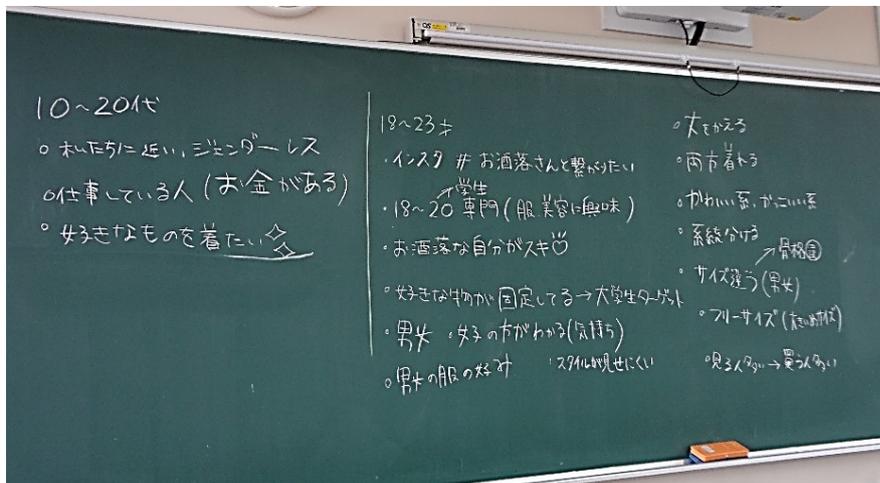
□ターゲットの検討

今年度は、まず初めに商品開発でよく使われる手法である SWOT 法を用いて、自分たちの強みや弱みを考えさせた。

あらゆるジャンルの人がいる JK (若い) →Teen 世代の流行が分かる 裁縫、デザインができる 発信することに長けた人が多い 手伝っていただける環境！ 仲がいいと思っている	女クラだから男の人の意見が考えづらい 販売場所が少ない あまり人に知られる機会がない 資金力 ECサイトの専門知識
パーソナルカラー、骨格診断など 流行っており、気にする人が多い ジェンダーレス ステイホーム🏠 韓国人気 SDG s サスティナブル おでかけが減った	安いネット通販 福岡女子高校 (キャラ被り) 先生とのくいちがい

※原文のまま

これらの分析をもとに、自分たちの強みを活かした商品企画となるようにターゲットの年齢層やライフスタイル、ファッション志向などについて意見を出し合った。複数の案が出されたため、4～5人のグループに分かれ、それぞれのグループでターゲットを絞り込み、提案をまとめた。「ターゲット企画表」を利用しながら、ターゲット像を明確にさせ、「イメージマップ」も制作させた。



板書の様子



発表準備

□デザインの提案・決定

各グループでまとめた提案内容について、プレゼンテーションを行った。手元資料として、各グループで作成した「ターゲット企画表」と「イメージマップ」を冊子にして準備した。プレゼンテーション後には質疑応答を行い、それぞれの提案の相互評価をさせ、投票でデザイン案を決定した。

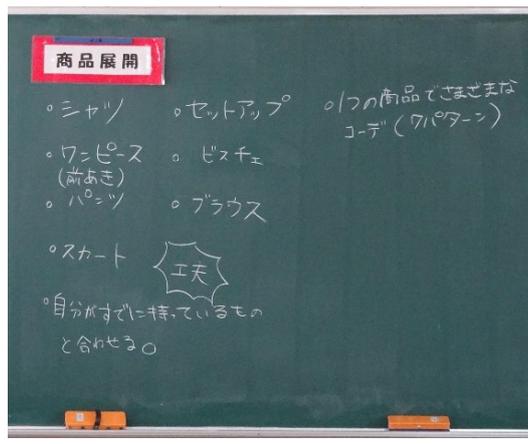
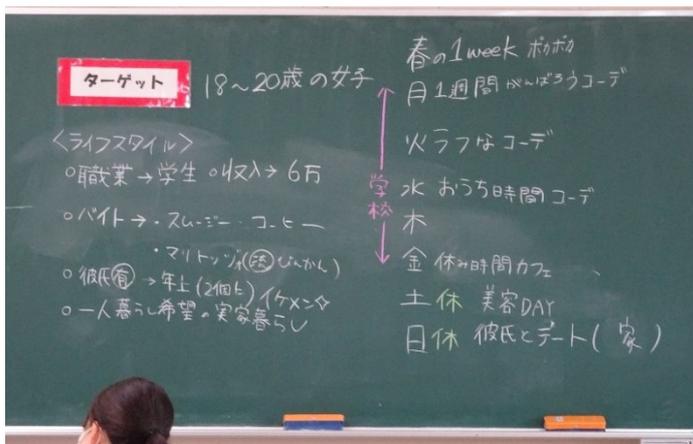
ブランド	CONNECT:	ブランド別	春の1week ポカポカ 月1週間 129円コーデ
16~20代	16~20代	トレンド	春夏 ・デニム ・ワイドパンツ ・パロ ・ワイドパンツ ・パロ
16~20代	16~20代	トレンド	春夏 ・デニム ・ワイドパンツ ・パロ ・ワイドパンツ ・パロ
16~20代	16~20代	トレンド	春夏 ・デニム ・ワイドパンツ ・パロ ・ワイドパンツ ・パロ
16~20代	16~20代	トレンド	春夏 ・デニム ・ワイドパンツ ・パロ ・ワイドパンツ ・パロ
16~20代	16~20代	トレンド	春夏 ・デニム ・ワイドパンツ ・パロ ・ワイドパンツ ・パロ
16~20代	16~20代	トレンド	春夏 ・デニム ・ワイドパンツ ・パロ ・ワイドパンツ ・パロ
16~20代	16~20代	トレンド	春夏 ・デニム ・ワイドパンツ ・パロ ・ワイドパンツ ・パロ
16~20代	16~20代	トレンド	春夏 ・デニム ・ワイドパンツ ・パロ ・ワイドパンツ ・パロ
16~20代	16~20代	トレンド	春夏 ・デニム ・ワイドパンツ ・パロ ・ワイドパンツ ・パロ



投票で選ばれた提案の「ターゲット企画表」と「イメージマップ」

投票で選ばれた案をクラス全体で共有し、ターゲット像を細かく絞り込んだ。ペルソナを設定して、一週間の行動を考えるなどしながら、全員でイメージを統一した。ターゲット像から、大まかに製作アイテムを絞り込み、個人でデザイン画を描き、提案を行った。

商品展開は、シャツ、ブラウス、スカート、パンツ、ワンピース、セットアップ、ビスチェを想定していたが、ブラウス（2種類）、スカート（2種類）、パンツ、ワンピース、ビスチェに決定した。



板書の様子

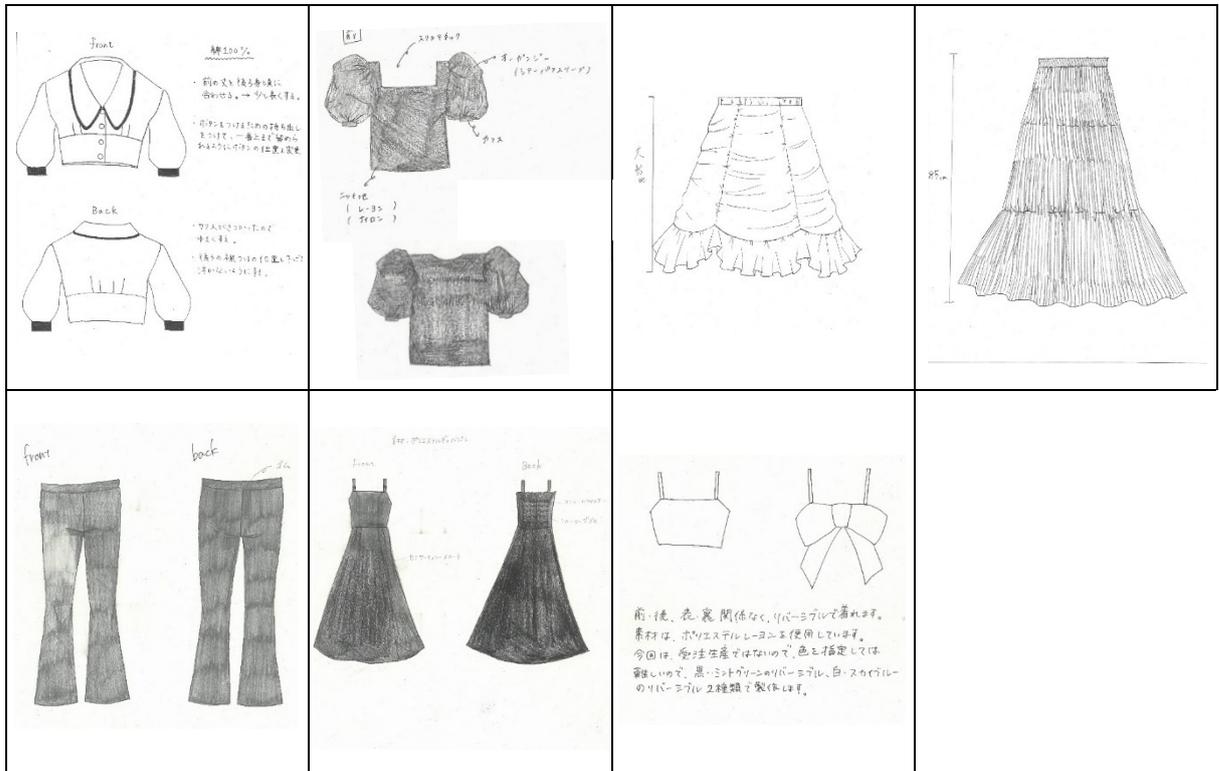
□グループ分け

製作はグループで行った。デザインを提案した生徒をデザイナーとしてグループを作り、下表のような役割分担を行った。また、グループ内の係とは別に、MDと会計を決め、MDには全体の進捗管理を、会計には帳簿の管理を任せた。

職種	業務内容
デザイナー	デザイン考案
パタンナー	型紙作成
生産管理	縫製仕様書作成、材料発注、原価管理、納期管理、品質管理、在庫管理
縫製	縫製仕様書の確認、裁断、しるしつけ
広報・販促	広報活動、販売促進活動

□デザイン案をブラッシュアップ

各グループで、デザイン案を検討しデザインを決定した。



決定したデザイン画

□製作準備

製作の準備に係に分かれて行った。係がすべて請け負うのではなく、あくまでもリーダーという位置付けで、グループ内で協力して製作準備を行った。「パタンナー」が中心となり「デザイナー」や「縫製」と協力して製図を行い、「生産管理」は製作に係る材料やその価格について調査を行った。「広報・販促」はプロモーション活動について、「販売」はECサイトについての話し合いを行った。

各係で話し合った内容は授業の終わりに時間をとり発表をさせ、クラス全体で共有した。



「広報・販促」係がチラシの案を説明している様子

□価格設定について

昨年度は、「売れる商品を製作する」という目標を掲げていたこともあり、生徒たちは、材料代やその他の必要経費をあまり考慮せず、ターゲット層が購入しやすいと思う価格を設定した。このことについては、運営指導委員会でもご指摘いただいております、改善の必要があると考えた。

昨年度の反省を踏まえ、今年度はまず、各グループから出された必要経費の概算をもとに、MDと会計を中心に販売価格を検討した。生徒たちは、2年次に「ファッション販売能力検定2級」を全員が受検しており、店舗での販売価格の設定法については学習している。必要経費には人件費や光熱費等は含まず、材料費に商品の発送の際のラッピング等の経費を加えて考えさせた。実習の目

的が、収益をあげることではないので、赤字にならないラインでの価格設定を考えさせた。

右表は、材料費の概算から販売枚数と販売価格を設定し、一覧にまとめたものである。

予定していたほど材料費がかからなかったため、ビスチェのみ販売価格を2,630円に変更した。また、これ以外にも、発送準備等で3,620円の支出があったが、完売すれば20,000円程度の利益が出ることになり、来年度の実習費に余裕が出ることになる計算である。

9.29(水)現在

	製作枚数	必要経費	1着あたりの経費	販売価格	売上見込み	備考
ブラウス①	5 (黒3・ビスチオ2)	12360	1780	2300	11500	
ブラウス②	5	6460	2000	2600	13000	
スカート (ハブラム)	4 (黒2・白2)	4216	1054	2700	10800	
スカート (ティアード)	4	10034	2128	3300	13200	
パンツ	3	5661	1887	2400	7200	
ワンピース	6 (黒3・白3)	20246	2982	3980	23880	
ビスチェ	6 (黒3・白3)	12666	2385	3100	18600	
合計	33	71643			98180	

□ サンプル製作

予算が確定したら、材料を調達しサンプルの製作に取りかかった。材料の調達も「生産管理」を中心に、生徒たちで行った。自分たちのイメージに合う素材が近隣の手芸店で手に入らない場合は、インターネットで購入するなどして調達した。購入の際は、必ず領収書をもらい、会計担当が帳簿をつけて管理を行った。

□ ブラッシュアップ

サンプルができあがったら、サンプル検討会を行った。各グループで、デザインのポイント等を発表し合い、意見を出し合って改善点を検討した。

改善案については、教育ソリューション研究協議会の長谷川絵美氏から助言をいただいた。



講師に助言をいただいている様子

□ 商品の製作

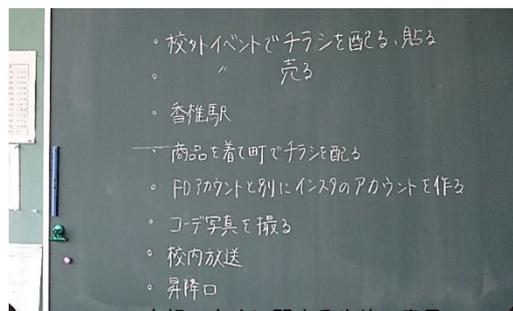
デザインや縫製の方法を改善し、販売用の商品の製作を開始した。「生産管理」を中心に、縫製仕様書も作成させた。2年次に、縫製仕様書に関する特別授業を受けていたが、不備が多く何度も描き直したり、仕様書通りの製品に仕上がっていないなどの課題も多く見つかった。先に実施した「ねこコースター」の縫製で、規格通りに製作することの大切さを学んでいたが、出来上りの寸法や縫い代の寸法が揃っておらず、何度も手直しを行わなければならないものもあった。実習の時間が十分に確保できなかったため、商品を製作しながら縫製仕様書を作成させたが、先に縫製仕様書を完成させてから、仕様書通りに縫製をさせる必要があった。

□ ECサイト準備

株式会社WEBUOの吉田透氏による特別授業を実施し、eコマースの運営に関する実務について、指導を受けた。BtoBやBtoCなどの取引形態の説明から始まり、「CONNECT:」はD(Direct)toC(Consumer)という形態であることや、ストア構築の際にあらかじめ決めておかなければならないこととして、販売商品数や目標売上等の販売計画は元より、決済手段や送料等の運営ルー

ルを定めたり、与えたい印象を明確にしてキャッチコピーを考えたり、サイト全体のイメージを統一したりすること等について具体的に説明を受けた。ECはあくまでもたくさんある販売手法のひとつであり、商品を作る段階で、どのようなお客様にどのようにして届けるのかまで考えておく必要があることがよく理解できた。

また、商品を売るために必要な広報の方法など、生徒から意見を引き出し、具体的に考えることができた。商品の説明文には、専門用語や理解しにくい言葉を避けることや、実際に手にとって確認をすることができないため、どうやって魅力を伝えるか、情報として何が必要で何が不要でないか等、具体的に説明を受けた。



広報の方法に関する生徒の意見

<生徒の感想>

○洋服を販売するにあたって、大変なことが多いとは思っていましたが、想像より多くてびっくりしました。私は商品企画の授業を1年生の頃からずっと楽しみにしていたので、絶対に後悔しないようにしたいです。私はデザイナーを担当しているのですが、ECサイトにも興味があるので、お手伝いをたくさんしようと思います。

○ネット通販をよく利用するけど、その仕組みや用語などは知らないことの方が多かったです。普段は買うことしかないので、企業の取組や生産のことは分からなかったけれど、この授業で学ぶことができてよかったです。

後日、「広報・販促」系の生徒とサイトのイメージや掲載内容等について打ち合わせを行い、WEBUOのスタジオやその周辺で、ECサイト用の写真撮影を行った。イメージに合ったメイクやコーディネートも生徒たちで考えたり、デザインのポイントが伝わるようなポージングを考えたり、互いに相談しながら行った。



撮影準備（メイクの様子）



撮影風景

商品名については、商品の魅力が伝わるネーミングを各グループに提案してもらい、「販売」係で統一感が出るように調整を行い、以下のように決定した

A	ボリュームたっぷりのパフスリーブニットシャツ
B	上品でかわいい★ペプラムスカート
C	私が主役！かわいさナンバーワンワンピース
D	結んでオシャレ★リバーシブルビスチェ
E	綺麗めビックカラーブラウス
F	履くだけ style up! ベルボトムパンツ
G	大人かわいいティアードスカート



撮影した写真の中から、掲載するものを生徒たちで選び、商品説明文も考え、ECサイトが完成した。サイトの管理は、WEBUOに依頼しており、注文が入ったら学校に連絡を入れてもらうようにしている。



<https://connect-fashion.shop>



ECサイトトップページ

□発送準備

配送方法は、レターパックを使用することとし、レターパックの中に入るサイズにラッピングをした。レターパックを開いたときに、お客様に喜んでいただけるように、一つひとつ心を込めて準備を行った。



発送準備（ラッピング）



ラッピング後の商品

□広報活動

①コレクション実施

11月6日にかすや6町キルトの会から要請を受け、同会主催の「かすや6町交流キルト&ハンドメイドフェア in 久山」でファッションショーを実施し、併せて、コレクションを実施した。商品をコーディネートして、多くのお客様に披露した。

②展示

福岡リーセントホテルとのコラボレーション事業のファッションショーの際に、展示を行った。

③SNSによる発信

本校では、毎週金曜日に生徒によるインスタグラムの投稿を行っているため、これを活用して紹介を行った。



①コレクション



②展示



③インスタグラム

④ショップカード、チラシの制作

イメージ重視で、あえて詳しい情報を載せず、興味を持ったお客様にすぐにアクセスしていただけるようにQRコードを載せた。



④ショップカード



④チラシ

今年度は、グループ内での役割分担を明確にして実施したが、係を決める際には、デザイン案を提案した生徒が「デザイナー」、縫製が得意な生徒が「縫製」というように、自然と自分の強みを生かした役割を担っていた。生徒たちは3年間同じクラスで、お互いの得意分野を把握し、認め合うことができている、それぞれの強みを活かしながら役割を果たし協力し合って実習を行うことができた。

<生徒の感想>

- 今回の製作で、複数で情報を共有して、一つの規格のものを作る難しさを学びました。計画的になかなかすすめられず大変だったけど、なんとか仕上げられたのでよかったです。次は「CONNECT:」の服が一人でも多くの方に届くと嬉しいし、そのお手伝いができるよう頑張っていきたいです。
- 今回、ブランドとして商品を考えていく上で、消費者がどんなものを求めているのか考えるのが、大変でした。自分が欲しいものではなく、流行などを取り入れて、考えるのは楽しかったです。
- これまでは自分が着用する服を製作してきたので、他者が着用することを考えて様々な工夫をすることは難しかったけど、とても勉強になりました。MDの3人と会計の2人はみんなを引っ張ってくれたので感謝しています。

○まとめ

「CONNECT:」というブランド名で販売を始めて4年目となり、指導する側も前年の実績を踏まえ、反省点を改善しながら取組み、学びの高度化を図れていると感じる。だが、実習に係る費用の問題や、生徒のモチベーションの維持など、解決しなければならない課題も多いと感じている。

本校では、授業改善のために年に2回授業アンケートを実施している。アンケートでは、「目標」（毎回の授業の目標が明確に示され、その目標を達成する取組になっているか）、「速さ」（授業の進む速さは適切か、授業の開始・終了時刻を守ろうとしていたか）、「分かりやすさ」（担当教員は

分かりやすい説明や指導をしているか)、「工夫」(担当教員は理解が深まる工夫を行っているか)の4項目について、それぞれを4点満点で生徒が評価する。

図1は、3年生の専門科目(「課題研究」「ファッション造形」「ファッションデザイン(商品企画)」「ファッションデザイン(産業)」「服飾手芸)のアンケート結果を比較したものである。「商品企画」は第2回目のアンケートで最もポイントが下がっていた。図2は「商品企画」の4項目の値を比較したグラフであるが、第2回目ではどの項目のポイントも減少しており、生徒の授業に対するモチベーションが低下していたと思われる。中でも、「速さ」のポイントが大きく減少しているが、第2回目のアンケート時期は商品を製作しているところで、授業時間が十分に確保できていなかったことが要因ではないかと分析する。スケジュール管理をしっかりと行い、必要な時間が十分に確保できるよう改善していきたい。また、次年度からは、商品企画実習に特化した学校設定科目「ファッションビジネス」を新設し、2年次1単位、3年次3単位で実施する予定となっており、現在1年間で完結している内容を2年間で実施できるため、生徒の負担感を軽減できると期待している。

この実習は、製作物の売り上げを翌年の資金とすることで循環させているが、思ったような販売実績が得られなければ、当然、資金不足に陥る。昨年度、県に相談したところ「実習製作物売払手続」として予算をたて運用できないかシミュレーションをしていただいたが、多くの書類を作成する必要があり実用的ではなかった。その後もいろいろと検討したが、現時点で解決策はみつからない。クラウドファンディングという案もあり、一時的に資金の調達をするにはよいと考えられるため、今後必要に応じて検討したい。

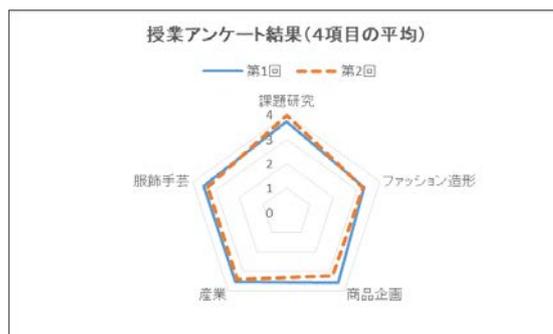


図1

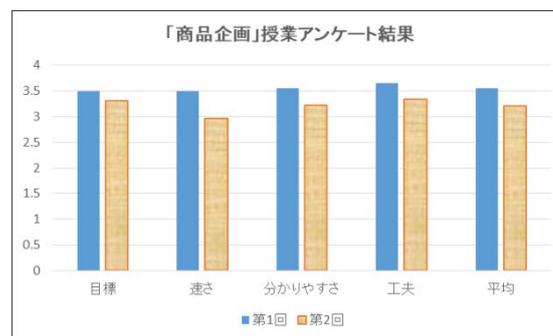


図2

(4) なのみ工芸との協働事業（ねこコースターの製作）

① 概要（ねこコースター製作の経緯）

古賀市にある社会福祉サービス事業所「なのみ工芸」では、長年「さをり織り」の生地を織り、ポーチや干支飾りなどの商品に加工し販売をしている。この施設の近隣に相島という、猫の島として世界的に有名な観光スポットがあり、そこで「さをり織り」の生地を使ったねこの顔型のコースター（ねこコースター）を販売したところ、好評で生産が追いつかないため、一昨年、本校に縫製業務の協力依頼があった。そこで、なのみ工芸と業務委託契約を結び、昨年度より本校ファッションデザイン科の生徒が縫製業務を担っている。

丁寧に見栄えよく仕上げることは元より、規格通りに製作し、品質を安定させることの大切さなどを学ぶことができる良い教材になっている。昨年度、納品したねこコースターは、2割弱が検品を通らず、商品として販売するには自分たちが思っている以上に高い質を求められるということを改めて思い知らされた。今後も継続して縫製業務を担わせていただくため、昨年度の反省を生かし、生徒には検品に合格することを意識させて取り組ませた。

② ねこコースター縫製実習〔実施科目：ファッションデザイン（選択） 生徒34名〕

内容

- ・ねこコースターを一人3枚縫製する
- ・「さをり織り」を活かした、オリジナルコースターを1班3～4名につき2種類製作する

○実施内容説明

今回の活動の趣旨を理解させるため、「なのみ工芸」の施設紹介や「さをり織り」について説明し、昨年度から本校と業務委託契約を結び、協働事業として実施していることを説明した。

3～4人一組で9班作り、班毎に活動を行うこととし、ねこコースターを一人3枚、「さをり織り」を活かしたオリジナルコースターを1班につき2種類製作することを説明した。

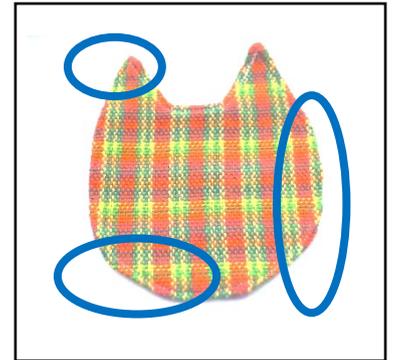
昨年の検品で合格しなかった理由として以下の点があげられていた。

- ・ステッチの幅が一定ではなく、うまく縫えていない部分があった
- ・織り糸がほつれ、表に出てきている部分があった
- ・さをり織りの色合いに対して、ステッチの色があっていなかった

以上の点を重要課題として取り組ませた。

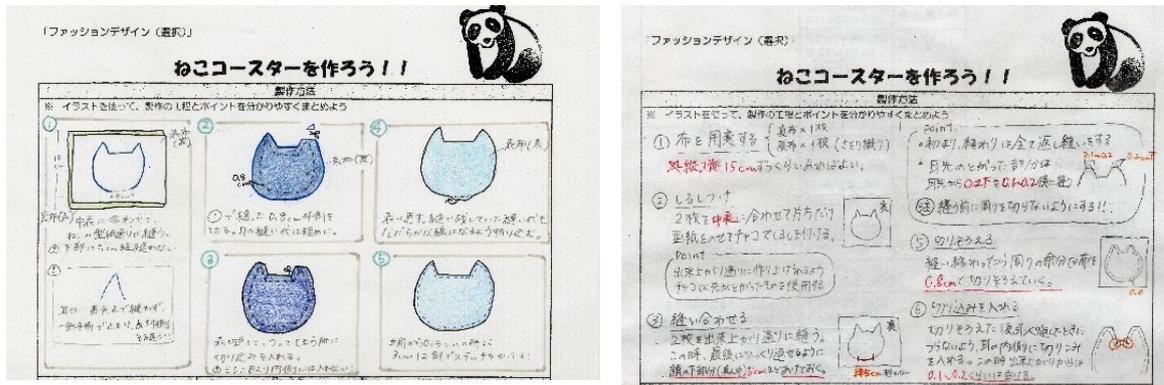
○ねこコースター製作の練習

「さをり織り」は組織が粗く、ほつれやすく扱いが難しい。昨年度の課題を克服するためにも、縫製の練習を行った。縫製工程は今までの学習を生かし、自分で考えながらの作業とした。耳の角がきれいに出ない、顔のカーブ部分が左右対称にならない、ステッチ幅が揃わない、返し口が平らになってしまうなど、昨年と同じ箇所がうまくいかなかった。



縫製の際に注意が必要な箇所

難しかった点とその改善点について、班ごとに意見交換を行った後、全体で共有し、どうすれば形が整うか、誰が見ても規格通りに製作できるような縫製工程を各個人でまとめた。分かりやすく書かれているものを選び、本番で製作する際に活用した。



生徒が作成した製作工程書

○ねこコースターの製作

練習を生かしながら、販売する商品であることを意識させ、作品作りに取りかかった。

表地に使用する「さをり織り」は、布目を整えて接着芯を貼った状態で届けていただき、裏地は猫柄の綿布を使用する。「さをり織り」は一枚一枚色や柄が違い、場所によっても色や柄が違う。厚みや織りの締まり方も異なり、自分好みの場所、織りが緩くなく縫製しやすい場所などを探しながら裁断を行った。

縫製については、全体で共有している縫製工程表を確認し、試作の際に気づいた点に気を配りながら慎重に進めた。個人作業ではあるが、班を作っているため、お互いに教え合いながら行うことができた。仕上がった生徒から自己評価の後、教員による検品を行い、合格できなかったものは縫い直しを行った。

今回製作した102枚を納品し、なのみ工芸で検品を受けた結果、98枚が合格した。このねこコースターは本校100周年記念行事の来賓へのお土産にも使わせていただいた。

〔自己評価の観点〕

- ①ステッチのかけ方がよい（端から0.3cm）
- ②ステッチの針目が適切（3cm12針）
- ③表裏のつり合いがよい
- ④規格通りのサイズに仕上がっている



100周年記念行事の際の来賓へのお土産

<生徒の感想>

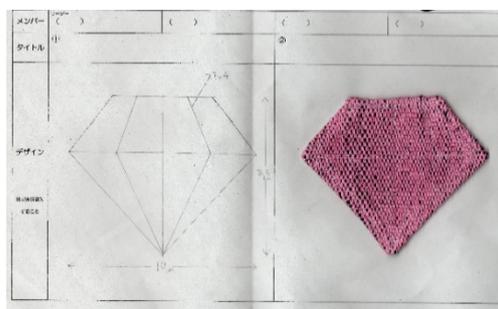
- 表に返すとき、アイロンを使って形を整えるとステッチがしやすくなるのが分かった。
- 縫い代に切り込みを入れるとき、布の厚みによって少しずつ変えなくてはならず、経験が必要だと思った。
- 商品になるものなので、いつも以上に丁寧に仕上げることを心がけた。
- アイロン仕上げが大事なことが改めて分かった。
- 製作工程を作るとき、だれにでも分かってもらえるようにまとめるのは難しいと思った。

○オリジナルコースターの製作

まず、個人で「さをり織り」を用いたオリジナルコースターのデザインを2種類考え、試作をした。班ごとに個人が製作したコースターを評価し、商品としてのコースターにふさわしいデザインを2種類決めた。

[選考のポイント]

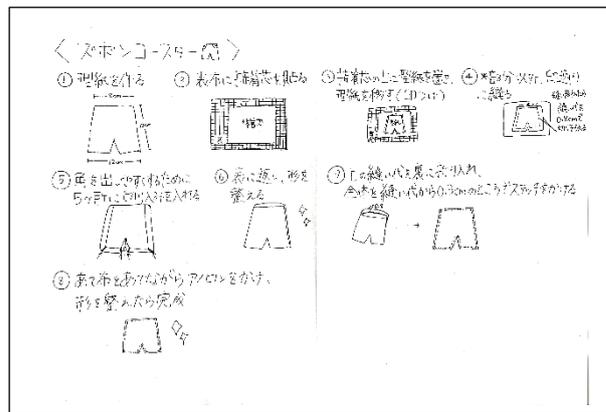
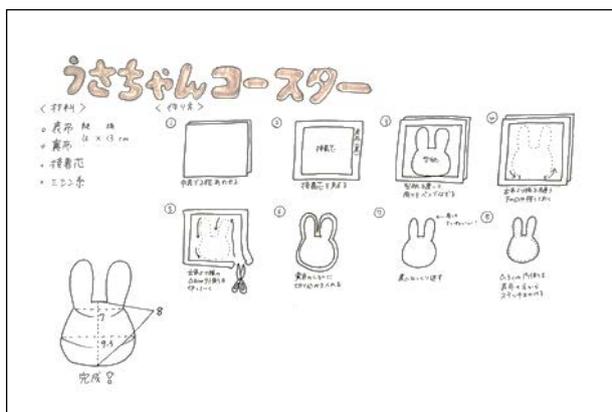
- ①一目で見てわかるデザインである
- ②買いたくなるようなデザインである
- ③大きさは適切である
- ④縫製に無理がない
- ⑤「さをり織り」が活かされている



オリジナルコースターの試作（個人）

○ブラッシュアップ

各班で選んだデザインの質を高めるために、班で再検討した。また、それぞれのデザインの製作工程を作り、作業手順について共有した。



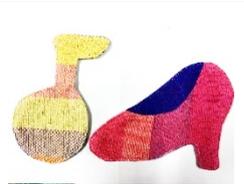
生徒が作成した製作工程書

作業の進め方については、特に指示は出さなかったが、多くの班が作業内容を分業していた。これまでの経験の中で、作業効率を上げ、なおかつ品質の安定を図るためには、この方法が適していることを理解している。班活動をする機会も多く、また、各個人の得意とする技術をお互いに理解

しているため、班の中で適材適所に分かれ、効率よく進めることができた。「販売するための作品」という意識が備わっているため、「ねこコースター」を製作した際の感想にも述べられているような点に留意し、作業途中で何度も点検しながら進め、商品をより良いものにしようという姿勢が感じられた。

オリジナルコースターは全17種類、68枚を製作し、教員による検品を行った。

生徒が製作したオリジナルコースター

				
ロミオ ジュリエット	ジグゾーパズル	Tシャツ パンツ	運コースター ハート	チューリップ 林檎
				
おんぷ ハイヒール	おうかん しずく	うさぎ あひる	いちご 雲	

生徒が作成した製作オリジナルコースター

○納品

オリジナルコースターを納品し、検品を行っていただいた。

③ 成果と今後の展望

今年で2年目の取り組みだが、商品としての質が求められるので、生徒たちは縫製の技術をもっと上げなければならないことに改めて気付いたようである。また、今回取り組んだ3年生は、昨年度からねこコースターの存在は知っていたが、実際に関わることで改めて地域に目を向ける機会となったようである。「なのみ工芸」を利用している方が一生懸命に織った織物を、大事に使わなくてはならないことも感じていた。

「さをり織り」はワクワクするような色遣いや、同じものが2つとない点に魅力を感じる。コースターなどの小物に限らず、ファッションの中にも取り入れ、「さをり織り」をもっと広く利用できたらいいのではないだろうかと考え、本校の活動により、「さをり織り」の周知に繋がればよいと考えている。

(5) ブックオフとのコラボレーション企画（リメイクコンテスト）

ブックオフは全国展開をしているリサイクルショップだが、本だけでなく、多くのアパレル商品も取り扱っている。福岡にあるノース天神店は、今年度新たに福岡ファッションインキュベータに加入していただき、リメイクコンテストの実施を通して本校生徒に支援いただいた。

このコンテストを通して、多くの衣服が廃棄となっている現状を知り、廃棄予定の衣服のリメイクを通して商品としての価値を高めることで自由な発想でファッションを創造できる実践的能力を養うとともに、SDGsの理念等について関心をもたせ、社会課題を解決しようとする態度を養うことができると考えた。

製作の条件は以下の通りである。

- ・実際に着用可能なもので、商品として価値あるものとする
- ・ブックオフの商品を使用すること（200円～1380円の範囲）
- ・デザイン、サイズ、季節は問わない
- ・2～3名のグループで製作する

製作

9月16日（木）6・7限 リメイクコンテストの概要説明

生徒にリメイクコンテストの募集要項を提示し、今回の趣旨・条件などを説明した。13班作り、ブックオフでの材料調達に向けて班ごとにデザインや必要なものなどを話し合った。

9月21日（火）午後13：30～16：00 素材選定

リメイクコンテストに必要な素材選定を行うために、ブックオフノース天神店を訪問した。生徒は事前に計画していた素材を求めて売り場内をまわり、必要な素材を集めた。



ブックオフ店頭での素材選び

9月27日（月）6限 リメイク計画

デザインの修正や縫製の計画などを班で話し合った。また、持ち帰った素材を写真に撮り、素材の商品リストを作成した。

9月28日（火）5・6限／30日（木）7限／10月12日（火）5・6・7限リメイク作品製作

デザイン画を確認しながら、作品製作を進めた。また、残布をできるだけ出さないように、新たに小物等の製作を加えたり、トータルコーディネートを考えながら製作した。また、応募用紙の記入を行い、提出した。



古着をほどこしている様子



グループで製作している様子

評 価

10月14日（木）7限 リメイク作品の発表・相互評価
 作成した作品をボディに着せ、作品のコンセプトや縫製面のポイントなどを発表し、相互評価を行った。

【評価項目】
 ①着用できる服になっているか
 ②コンセプトに合っているか
 ③適切な縫製ができているか

作品 1 	作品 2 	作品 3 	作品 4 	作品 5 
作品 6 	作品 7 	作品 8 	作品 9 	作品 10 
作品 11 	作品 12 	作品 13 	<p>【結 果】 一番評価が高かったのは 作品 13 であった。</p>	

<生徒のコメント>

- シンプルに見えて、アシンメトリーだったり、フリルがついていたりして素敵
- パッチワークがきれいにできている
- 色合いが統一されていてとても可愛い
- 買ってでも着たい服

10月15日（金）～22日（金） ファッションデザイン科1・2年生の投票

被服室前の廊下に展示し、1・2年生には、以下の項目で評価を受けた。

【評価項目】	【結果】
①着てみたい	⇒ 作品5
②縫製がきれい	⇒ 作品4
③「推し」である	⇒ 作品4



校内での展示の様子

3年生の相互評価とは違う結果となった。

審査

生徒による相互評価と同じ基準で審査を行った。

10月27日（水） コンソーシアム会議参加者による審査

コンソーシアムメンバーによる審査を行った。

◆最優秀賞・・・作品1

- ・トレンドを意識しておりとてもおしゃれに仕上がっている
- ・靴ひもも工夫されている
- ・「着たい」と思う作品



審査の様子

◆優秀賞・・・作品5

- ・縫製面がとてもきれいに仕上がっている
- ・「制服」というコンセプトとは少し離れているが、縫製とデザインがよい

10月30日（土）～11月7日（日）ブックオフノース天神店での展示・投票

ブックオフに展示し、来場したお客様に「お気に入りの作品」という視点で投票してもらった。QRコードからの投票で（70名の方が投票）「キラリ賞」（作品12）を、ブックオフノース天神店社員の方の審査により、「ブックオフ賞」（作品13）を決定した。

賞に選ばれた作品4体を、ノース天神ビルのショウウィンドーに展示した。また、11月に実施した学科集会の場で表彰を行った。



ブックオフ店頭での展示の様子



賞に選ばれた作品をショウウィンドウに展示

<生徒の感想>

- リメイク作品を製作して、デザイン画通りに作ることができたのは良かったが、縫い代の処理を丁寧にできていなかったところが反省点です。靴や帽子、バッグなどにも残布を使用して統一感のある作品が完成しました。
- 袖のパッチワークの部分が細かく大変でした。3人で役割分担をする中で、得手不得手があるので、得意な作業で分けました。仕上がりがきれいになり、満足いく作品になりました。
- 製作するにあたって、縫製箇所をほどこため、既製の縫製方法などがよくわかり、勉強になりました。何種類かの服を組み合わせで製作したので、オリジナリティあふれる作品になったと思います。
- 班のメンバーで分担し、協力しながら作成ができました。3人のイメージを統一してデザイン通りに仕上げていくことに苦勞しました。帽子は立体裁断で製作したのですが、思い通りの形にならなかったのが残念でしたが、リバーシブルの帽子が完成しました。

ほとんどの生徒がリメイク作品を製作することが初めてであり、貴重な経験となった。また、限られた時間の中で、デザインから素材選定、縫製など効率よく行うため、グループ内で役割を分担し、協働する力が身に付いた。さらに、多くの人に作品を見てもらい、評価してもらうことで、自己肯定感を得ることができた。

今回の実施にあたって、多くの班が素材選定の時に大量の古着を持ち帰ったが、一部だけしか使用せず、残布を多く出してしまった。今後は、使用する商品の数の上限を設定するなどの改善が必要だと考える。また、残布を減らすためには、古着だけでリメイクするのではなく、生徒が持っている残布などを利用することも検討していきたい。SDGsの概念について、やや達成できていなかったと考える。

また、出来上がった作品の中には、着用は可能であるが縫製が雑で商品としての価値があるとはいえないものもあった。今後実施するにあたっては、商品として販売できるクオリティの作品を目指し、縫製の美しさも重視しながら製作させたい。今回、製作の条件が「実際に着用可能」や「デザイン、サイズ、季節は問わない」など自由度の高いものであったが、「Tシャツのリメイク」や「シャツブラウスとTシャツを使っでのリメイク」など、テーマを絞ることで、審査の際の基準が明確になり、評価も行いやすくなると思う。

今回は初めての取組ということで、本校内での実施であったが、今後は他校にも一緒に取り組んでもらい、将来的には、県内の高校生が切磋琢磨しながらデザイン力や縫製力を高められるようなコンテストにしていきたいと考えている。そのためには、長期休業を利用するなど、実施時期についても検討が必要であると思う。

(6) 箱崎JKプロジェクト

福岡リーセントホテルは、本校近くにある公立学校共済組合の施設で、昨年度よりコラボレーション事業として実施している。実施の目的は以下の通りである。

福岡リーセントホテルと連携し、ホテル周辺の箱崎・筥松地区の一般の方々や福岡市東区を中心とした中学生やその保護者への広報活動を通して、本校ファッションデザイン科の取り組みを広く発信するとともに、地域貢献についても学ぶ。また、授業作品展示や販売、ファッションショーを通して、作品の魅力を効果的に発信させるとともに、企画力・運営力を身に付けさせる。

実施した内容は、基本的に昨年同様で、「展示・物販」と「ファッションショー」の2点である。昨年度の反省点を改善しながら2年生が「展示・物販」を、3年生が「ファッションショー」を担当した。共済組合やホテル側は、生徒を一社会人として対応し、生徒による主体的な取組となるように、7月から2月まで、計6回の合同企画会議を実施した。会議では、生徒の理解力に応じて柔軟に対応してもらい、生徒に考えさせ生徒たちが動くことを重視して進めた。



合同企画会議の様子

集客のターゲットを、保護者など顔見知りの方ではなく、「一般のお客様」とし、「興味を持ち来場していただくためにはどのような工夫が必要か」という視点を持って取り組ませた。また、「中学生やその保護者」もターゲットにすることで、本校ファッションデザイン科について知ってもらい、高校を選ぶ際の選択肢の一つにしてもらうことも目的とした。

以上のことを踏まえ、社会人としての厳しい目線をもって臨むよう指導するとともに、高難度の課題に取り組む生徒には努力過程についても確実に評価しながら進めた。概要を以下に示す。

<合同企画会議>

令和3年7月26日(月)：第1回合同企画会議

□昨年度の生徒反省

①展示・物販

- ・プロジェクト名「箱崎JKプロジェクト」を引き継ぐ
- ・ロゴマークは継続するが色を変える
- ・昨年同様、作品展示と物販を行う
- ・展示・物販のブース名(「Dear__」)は継続するが、テイストを変えリニューアルする
- ・サブタイトルを変更する

②広報活動について

- ・ファッションショーのチラシを作成し、ポスティングをする
- ・チラシにQRコードをのせ、読み取ることで動画へつながるようにする

③ファッションショーについて

- ・ランチタイムに実施(ランチ付き)
- ・昨年同様テーブルコーディネートを行う

□ホテルからの提案

①プロジェクト名・コンセプト・ロゴマークの作成

- ・プロジェクトの目的や達成したいゴールを名称に用いる
- ・プロジェクト名を表現できるロゴマークを考える 等

②展示ブースの活用について

- ・製品・作品の展示・販売 ・学校での活動報告 等

③客室を使った広報活動

- ・広報用のチラシをセットする
- ・QRコードでホームページや動画へ誘導する
[チラシや動画作成のポイント]
- ・「いつ」「誰が」「どこで」「何をするのか」を明確に表現する
一番目立たせたいものをはっきりとさせる

※客室はお客様のプライベート空間なので、客室にポスターを貼る、動画を流すなどは控える

④地域への広報活動

- ・福岡リーセントホテル周辺にお住まいの方に企画した情報を知らせる
※主な広報活動はポスティング（昨年は2,000枚を配布）

⑤ファッションショーの開催

- ・地域のお客様をメインターゲットとしたショーの開催をする
※ターゲット・・・地域の一般のお客様、中学校の生徒及び保護者

令和3年9月10日（金）：第2回合同企画会議

□生徒からの企画提案

①展示・物販

- ・プロジェクト名：箱崎JKプロジェクト～私たちからあなたへ贈る最高の「おくりもの」
- ・コンセプト：「日々の生活に彩りをプラスしてみませんか」
- ・ターゲット：40～50代女性
- ・実施期間：10月～12月
- ・ロゴマーク：サブタイトルの変更に伴い、字体とカラーの変更

□ホテル側からの提案

①ターゲット調査

- ・ターゲットはどんな人物かをしっかり調査し、効果的な宣伝媒体や販売商品を考える。
- ・売り手側のメッセージを効果的に伝えることで、お客様の心が動き購入意欲が湧く。

②広告の改善

- ・訴求ポイントを大きく書き、目立たせる。
- ・写真を多く使い、販売する商品が分かるようにする。
- ・メッセージが多い場合は、余白や吹き出しをうまく使い見やすくする。

令和3年10月7日（木）：第3回合同企画会議

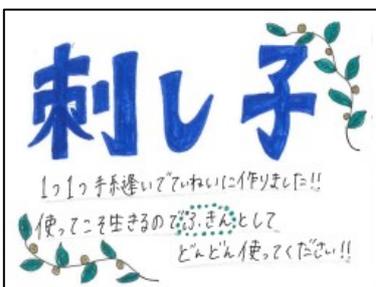
□生徒からの提案

①展示・物販

- ・月毎にコンセプトを設定し、販売商品を分ける
 - 11月：心も体もあったかフェア
 - 12月：クリスマスギフトフェア
- ・ロゴマークサブタイトル書体（手書き）の提案
- ・販売商品のポップ広告の提案



ポップ広告案



②広報活動

- ・ポスターとチラシを提案

ポスター案



チラシ案



□ホテルからの提案

①企画書について

- ・ターゲット層を30～50代へ広げることを検討

②ロゴマークについて

- ・サブタイトルの可読性を意識したロゴの提案

③広報活動

- ・チラシとポスターの内容をまとめ、チラシのみ作成
- ・イメージカラーを設定し統一感をもたせる
- ・フェアに関連性をもたせる写真や文言を再考

④ポップ広告

- ・背景をイメージカラーにするなど、ショップの雰囲気
に合ったポップ広告
- ・重点商品に絞ったポップ広告の作成
(例：ソックモンキーヒストリーの紹介、コーナーパネルの設置等)

□ファッションショーの開催について

- ・日時：2021年12月11日（土）
11：00～14：00 ※撤収完了は15：00
- 場所：2F レインボーホール
- 価格：1000～1500円
- 最大人数：60名
- ・次回までに企画書、チラシ、ポスター、動画、スケジュールの作成

令和3年10月26日（火）：第4回合同企画会議

□生徒からの提案

①「ソックモンキーヒストリー」について

- ・ポップ広告の提案
- ・ソックモンキーの作り方（説明書）を作成
- ・ソックモンキーの個性を出すため、名前や性格を書いた
メッセージカードを同封

②商品POP及び看板について

- ・ポップ修正案
- ・ショップ看板のデザイン提案

③広報

- ・広報動画の提案
- ・動画のQRコードをチラシに掲載

ロゴマーク案

生徒案



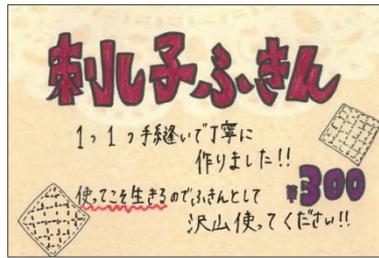
ホテル案



ソックモンキーポップ広告案



ポップ修正案



ショップ看板案



広報用動画案



□ホテルからの提案

- ・箱崎 JK プロジェクトロゴマーク、ショップロゴマークの決定
- ・展示販売用のチラシの決定

箱崎 JK プロジェクトロゴマーク



展示物販用チラシ



ショップロゴマーク



□ファッションショーについて

①昨年度の振り返り

良かった点

- ・テーブルコーディネートは衣装やテーマの雰囲気により伝わる手段だった。約86%が満足と回答した。
- ・ステージレイアウトは、花道があったことでより近くで衣装を見ることができた。

改善点

- ・ターゲットであるホテル周辺の方の来場が約25%だった。
- ・チラシによる来場が約24%。ターゲットに応じた広報活動の検討が必要である。

今年度追加点

- ・コンセプトを「お腹と心を満たす、ちょっぴり贅沢なひととき」と設定。クリスマスが近いこともあり、ファッションショーとランチで自分へのご褒美と感じられる、ちょっぴり贅沢な時間を過ごしていただきたい。
- ・ターゲットに「香椎高校への進学を検討している中学生とその保護者」を追加。中学生も気軽に参加できる時間にするため、「ランチ」の時間に設定した。広報活動の方法として、中学校へのチラシの配布、ファッションデザイン科インスタグラムで動画の投稿をする。

収容人数・レイアウトについて

- ・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば80名程度の収容を予定。ホール内レイアウトは昨年同様、受付からホール前の通路にファッションショーや卒業作品、デザイン画、コラージュ作品等を展示する。

②ファッションショーの企画案

昨年度の反省を踏まえ、今年度の企画を提案した。(⇒はホテル側からの提案、アドバイス)

プロジェクト名とコンセプト

「おいしいとおしゃれ」 ～お腹と心を満たす、ちょっぴり贅沢なひととき～

ターゲット

- ・ホテル周辺にお住まいの一般の方
- ・ホテル利用のお客様
- ・香椎高校への進学を検討している中学生とその保護者
⇒ターゲットごとの目標人数を設定するとよい

実施日程

12月11日(土) 11:00～受付
11:30～ランチタイム
12:30～ファッションショー

商品・サービス

- ア ランチ(1,500円程度、季節感、イベント感が伝わる食事を希望) ⇒メニューは料理長へ依頼
- イ ファッションショー(文化祭ファッションショーをメインに卒業作品等を組み合わせる)
- ウ テーブルコーディネート(昨年度同様ファッションショーの小テーマをイメージする)
- エ サンキューカード、ショーのプログラム

- オ 作品展示（ファッションショー以外のことも知ってもらうため、様々な授業作品を展示）
- カ 来場者へのアンケート（昨年度のアンケート結果が参考になったため、今年度も実施）
- キ 来場者へのプレゼント（季節感が伝わる刺しゅうを施した、くるみボタンのマグネット）

広報活動

ア チラシ・動画の作成

イ ポスティング、店舗や公共施設へのチラシ掲示の依頼

⇒・チラシのポスティングの日程を決める

→次回会議日にホテル周辺にポスティング（約 2,000 枚）

学区内の中学校、学区外の在校生の卒業中学校、体験入学参加中学校へ30部ずつ郵送

・動画は香椎高校HPにアップできないか相談する

（ホテルのHP・Instagramにも投稿可能）

・チラシの必要枚数を検討

（ポスティング・ホテル内配布用 2,000 枚、学校で使用する枚数を検討、4,000 枚と報告）

・ホテル内ではチラシを客室及びロビー、展示スペースにセットする

・公立学校共済組合福岡支部より記者クラブへの情報提供をしてもらう

・学校側でもパブリシティへの働き掛けをする

③ファッションショー広報物について

チラシ

〈原案〉



〈ホテル側の評価とアドバイス〉

- ・レイアウトやタイトルはとてもよくできている
- ・チラシのイメージやテーマが統一されていない

確認事項

- ①テーマカラー
- ②雰囲気（目指すもの）は何か。
（クール系？ナチュラル系？）
- ③決定したテーマや雰囲気に合う画像を選ぶ
提案のチラシはナチュラルなタイトルだが、写真がエレガントやポップになっており統一感がない

〈完成版〉



〈アドバイスを受けての生徒の回答〉

- ①ショーのイメージカラーである青、黒、白（シルバー）をベースにするが、食事やその空間の温かい雰囲気も両立したい
- ②エレガントな要素を入れて高級感を出したい
- ③イメージカラーに近い青系の衣装の写真

動画



〈ホテル側の評価とアドバイス〉

- ・動画の構成はよくできている
 コラボ企画→イベント情報→画像→イベント情報
- ・サイズも Instagram 用で今後の広報に使いやすい

修正事項

ショーの画像に文字が出てくるが、一般の方は何が書かれているか分からない

- ①私たちからあなたへ贈る最高の「おくりもの」
- ②お腹と心を満たす、ちょっぴり贅沢なひととき
- ③ファッションショー&ホテルランチ
- ④1,500円

令和3年11月25日（木）：第5回合同企画会議

□生徒からの提案

①プレゼントについて

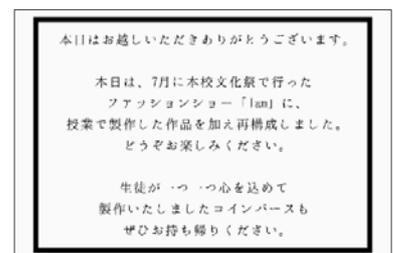
来場者へのプレゼントとして、季節感が伝わる刺しゅうを施した、くるみボタンのマグネットを渡すように企画していたが、今年度は、「もっと実用性のあるものにしたい」という意見が出たためコインパースを製作することにした。渡すタイミングは、あらかじめテーブルにセッティングすることとした。

②サンキューカードについて

名刺サイズにし、プレゼントに添える。ファッションショー「I am」の看板のモチーフ（女性の横顔）を取り入れたデザインにする。シルエット調のモチーフが引き立つように、有彩色は用いず、白と黒のみにする。裏面にはプレゼントのコインパースに関する説明を加える。



表面



裏面

③プログラムについて

- ・二つ折り、内面にショーのプログラムとメニューを載せる
- ・外面は広報用ポスターとリンクさせたデザインにする



外面



内面

④テーブルコーディネートの説明

- ・テーブルコーディネートに関する説明をテーブル中央に設置する

⇒円卓形式なので、配置する場所によっては
見えないお客様がいる

例 (A4の大きさにする)



□ホテル側からの提案

- ・本日、箱崎・宮松地区周辺へのポスティングをするが、すでに50名以上の予約があるため、目標人数(80名)を増やし、1卓8名掛け10卓を11卓へ変更する。

令和4年2月25日(金): 第6回合同企画会議

□生徒からの総括

①広報用の動画について

【販売用動画】

良かった点

- ・背景の色と字の色のバランスを考え、見やすいものを作ることができたと思う。
- ・商品の製作中の映像を入れたため一番伝えたかった「高校生が作っている!」という部分は伝えることができたと思う。

反省点

- ・スマートフォンで制作したため、容量が少なく入れたかった画像を入れることができなかった。
→簡素なものならスマートフォンでの製作でもよいと思うが、凝ったものを作る際には別の方法をとった方がよい。
- ・動画を見ていただけているのかがわからなかった。
→アンケートに動画についての項目を入れた方がいいと思った。

【広報用動画】

良かった点

- ・インスタグラム掲載用として 20 秒程度の動画を作成し、お客様に飽きずに見てもうことができた。
- ・香椎高校でのファッションショーの写真を使うことができたので、学校でのファッションショーのイメージを伝えられた。

反省点

- ・どんな動画にすればいいのか悩んでしまい制作に取り掛かるのに時間がかかった。
→構成をしっかりと考えて、効率よく作れたらよかったと思う。
- ・どれくらいの人が動画を見てくれたのかわからなかった。

②広報用のチラシについて

【ファッションショー】

良かった点

- ・チラシの内容は、昨年度の内容を参考にしながら作成を行ったのでうまくまとめられたと思う。
- ・lunch & fashion show というタイトルではなく、「おいしいとおしゃれ」というタイトルにしたことでより見る人の目をうまく惹くことができたと思う。
- ・おいしいとおしゃれの企画について、チラシをみて素敵だと思い来てくださった方がいたことで、チラシの効果を実感した。

反省、改善点

- ・試作時の販売用チラシと系統を合わせウォームナチュラルの配色にしたが雰囲気と合わなかった。
→ホテルの方々にアドバイスをいただき、用いるファッションショーの写真に合わせて配色をエレガントに変更し、改善することができた。

【物販】

良かった点

- ・商品の写真を 11 月と 12 月に分けて載せていたので、フェアごとに販売している商品がわかりやすく伝わりやすいチラシになった。また、何度も足を運んでもらえるきっかけになった。
- ・ホテル側から助言をいただきコンセプトやターゲット層に応じたチラシを完成できた。

反省、改善点

- ・前年度の反省点を改善できなかった。
→写真を撮る際に、包装されたものを使用したため反射してしまった写真があった。

③ポスティングについて

良かった点

- ・地図を見て、時間と区域をきめてポスティングを行ったため効率よくできたと思う。
- ・活動中に地域の方とお話をしようとする積極的な姿勢が見られた。

反省、改善点

- ・一番の反省点はチラシ禁止の場所に入れてしまい苦情があったこと。誰が入れたかが問題ではなく、ホテルの責任となってしまうので、一人ひとりがより責任感を持って行動していかなければならないと思った。

④ホテル内物販について

良かった点

- ・ソックモンキーにストーリーや名前を付けることで戦略的に販売することができた。
- ・物販、展示が行われていることを香椎高校の普通科の生徒たちに知ってもらうために各クラスにチラシを配った。また、生徒個人のインスタグラムのストーリーで宣伝をした。

反省、改善点

- ・ガラスケース内の商品が見にくいので見やすく取りやすい工夫が必要だと思った。
- ・POPを店の雰囲気やコンセプトに合わせて作ればよかったと思った。
- ・クリスマスギフトフェアの包装の仕方により工夫ができなかったため、特別感が出てなかった。

⑤ファッションショーについて

良かった点

- ・文化祭以降に製作した、卒業作品などの発表をすることができた。
 - 生徒の中にも卒業作品を着ることができてよかったという声が多かったし、お客様のアンケートにも「見ごたえがあった」「華やかだった」という意見が数多くあった。
 - 中学生が書いてくれたアンケートに「自分もこんな風になりたいと思った」というコメントがあったことから、進学後のイメージを伝えることができたと思った。

反省、改善点

- ・もっとファッションデザイン科の教育活動を知っていただくためには、商品企画や授業での作品をショーに取り入れてもよかったかもしれない。
- ・去年のヒールの音が響いてうるさかったという意見を踏まえ、パンチカーペットをステージに敷いたが、歩きにくかったという生徒の意見が大変多かった。

⑥アンケートの集計結果について

○ターゲット（箱崎・筥松地区の住民及び中学生とその保護者）に関して

- ・箱崎・筥松地区のお客様は全体の13%だった。
 - 箱崎以外の福岡市内の方が半数以上を占め、福岡市外の方も多くいらっしゃる中でこれだけの方に来ていただいていることから、目標達成できたといえると思う。
- ・香椎高校に進学を検討している中学生は全体の7%だった。
 - 保護者の方が各1人一緒に来てくださったと仮定すると全体の14%になるので、中学生をターゲットにするという初めての試みは、よい結果だったと思う。
 - 広報効果は元より、ランチタイムという時間設定が、中学生の参加を容易にしたとも考えられる。しかし、ファッションデザイン科の保護者の比率が高く、実際「このイベントを家族から知った」と答えた方は全体の59%で半数を超え、数の調整を試みたが抑えることができなかった。アンケートの中に「箱崎地区の知人が予約しようと思ったらもう満席だったそうです」という言葉もあった。一般に公開したファッションショーの回数が少なく、今回に集中したものと推察できるが、保護者数を削減できれば、異なる客層の来場となったかもしれない。
- ・ナレーションや音響、照明に関する設問と、テーブルコーディネートに関する設問については全員が「満足」という回答だった。作品の雰囲気を効果的に伝え、より満足していただくための手段になったと思う。

- ・入場料の1,500円については適正と答えた方が68%、安いと答えた方が28%だった。
適正価格での提供は重要であるが、「安い」という意見は今回のイベントに設定価格以上の価値を感じていただいていることでもあり、お客様に満足いただくという目的は達成できたと考えた。

□ホテルからの総括

①ホテル内物販の実績について

良かった点

- ・昨年は実施してない物販のポスティングを実施できた。
- ・昨年の反省をもとに、営業時間をホテル利用のお客様に合わせて延長したこと。(6:30~22:00)
- ・各商品の在庫を多く抱えていたため、商品が売れても売り場が閑散としなかったこと。
- ・各月でテーマを設定し、テーマに合わせた商品を取りそろえメリハリをつけたこと。
- ・クリスマスギフトをテーマとし、個性を持たせたソックモンキーを重点商品としてアピールしたこと。
- ・ファッションショー当日に受付で物販のチラシを配布したことで、閉演後に多くのお客様がご来店くださったこと。
- ・POP広告の基本的手法を参考にすることで、昨年度より効果的なPOP広告を作成できたこと。

改善点

- ・広報の開始が遅れたことで、11月度の売上がよくなかった。→10月にチラシを配布していたらよかった。
- ・11月度のテーマ「心も体もあったかフェア」に関連する商品の魅力が低かった。
- ・前年度の反省を生かし改善を進めたが、お客様の声を聞く仕組み(アンケート)が実施できなかった。
- ・次年度は、イベントテーマと商品の関連性をさらに魅力的なものとし、物販開始前に広報がスタートできればより多くのお客様に振り向いてもらえるであろう。

②広報活動について

良かった点

- ・物販もファッションショーも多くのお客様に振り向いていただけたこと。
- ・企画書に基づき、4,800枚のチラシを配布できたこと。
- ・動画も作って終わりではなく、チラシとリンクし活用できたこと。
- ・学校ホームページでも確実に広報活動ができたこと。
- ・ターゲットに掲げたお客様(箱崎・管松地区にお住まいの方、香椎高校に進学を考えている中学生)に振り向いていただけたこと。

改善点

- ・物販の広報活動が遅れ、11月度の集客に結び付かなかった。
- ・チラシの未使用が1,200枚あり、配付計画が甘かったと考えられる。

※広報企画担当として、思いを込めて作ったチラシが廃棄されることはとても悲しいことである。

③ファッションショーについて

○実績 一般席：59席／保護者席：52席／招待席：10席／立見席：2席

良かった点

- ・ターゲットである一般のお客様に振り向いていただけた。また、一般席を優先しつつ、保護者の方にも見ていただけた。

改善点

- ・事前に保護者の予約受注方法をルール化できていなかった。
→一般予約受付後、空席に対して保護者席を割り当てる。保護者の予約管理は学校側で集約する。

○テーブルコーディネートについて

良かった点

- ・飾りつけまで生徒主体でできた。
- ・ショーのテーマに合わせた演出ができた。

改善点

- ・昨年度も「全てのテーブルコーディネートが見たかった」の声あり。⇒来年度の改善事項。

○おもてなしについて

良かった点

- ・サンキューカードを付けたコインパスはお客様に喜んでいただけた。
- ・受付からお見送りまで、生徒中心におもてなしができた。

改善点

- ・お客様を見送る際、一般のお客様を優先にご挨拶（お礼）していたか。保護者・関係者メインになっていなかったか。

○作品展示について

良かった点

- ・作品ごとにパネルが設置されており、作品のテーマが分かりやすかったこと。
- ・今年は丸テーブルも活用し、多くの作品を見ていただけたこと。

改善点

- ・作品展示に関してもお客様アンケートで声を聞くべきであった。

○ファッションショーについて

良かった点

- ・昨年度の反省を活かし、ステージに赤のパンチカーペットを敷いたこと。
→足音が緩和された。見た目も良くなり演出効果が増した。
→反面演者は歩きにくかった。⇒来年度の検討事項。

改善点

- ・照明や音響など、FFIの外部機関に協力が得られないか。
- ・お客様アンケートのご指摘に目を向けること。
※多くの意見をいただいております、より高いレベルを求める声は、お客様の期待の現れであると捉え、その期待に応える努力をすることが大事である。厳しい言葉を真摯に受け止め改善を図る。



会議終了後、ホテルの方と記念撮影

＜展示物販＞

代表生徒4名を中心に、7月からクラス全体で企画の発案や準備を行った。昨年度の活動記録や反省点を活かし、より多くのお客様に足を運んでいただくにはどうしたらよいか等を話し合った。

展示については「香椎高校ファッションデザイン科の活動をより知ってもらう」ということを目標に、展示内容やレイアウトを考えた。展示物の内容がお客様に分かるよう、掲示物を作成するなどの工夫を行った。



展示用パネル



展示作品



物販について、11月は「心も体もあったかフェア」、12月は「クリスマスギフトフェア」とし、コンセプトに合った商品を選び、ラッピングも工夫した。ポップはホテルの方にアドバイスをいただき、色使いや可読性を意識して作成した。

12月に販売したソックモンキーは、製作した3年生と協力して1つ1つに名前やプロフィールを考えて、タグをつけたり、ポップにソックモンキーに込めた思いを書いたりするなど、会議で得た「新しい価値をつける」という助言を意識して準備を行った。



物販 (11月)



物販 (12月)

ショップ内はコンセプトに合った雰囲気作りができていた。また、チラシやポップ広告案をホテルの方からアドバイスをいただき改善していく中で、伝えたい情報や雰囲気を的確に表現する力が身に付いた。

<生徒の感想>

- 会議は毎回緊張したけど、プロの視点からたくさんのアドバイスをいただけて、とても勉強になった。提案したチラシやポップの原案がどんどん良くなっていくのを感じた。
- 自分たちの作品をラッピングや設置することで、商品として売っていることの実感が沸いた。実際に店頭で並んでいるのを見て、これからは作品をもっと丁寧に作ろうと思った。
- 長期間にわたる準備がとにかく大変だった。楽しくて達成感もあったけど時間が足りないと思った。もっとクラスで話し合ったり、商品を増やしたりしたいと思った。

生徒の様子や感想から、技術面だけでなく意識面の成長を感じることができた。合同企画会議では、生徒の提案に対する1つ1つ丁寧な指導・助言により実践的な学びを深めることができた。

また、会議に参加した代表生徒は、その内容をしっかりとクラスに伝達し共有することもできていた。生徒たちは、ホテルや教員から求められた内容以外にも、多くの方に来場していただくために校内での広報活動や、月毎にコンセプトを変える等のアイデアを自分達で考え出し、それを実践していった。また、作品製作に対しては、お客様に評価されるデザインや出来栄えについて意識するようになった。

反省点は生徒の感想にもあるように、活動時間を確保できなかったことである。放課後や休み時間を使って作業を行うことが多く、準備に参加できない生徒もおり経験に差ができてしまった。しかしながら、次年度からは、学校設定科目「ファッションビジネス」を新設し、この授業で展示や物販について取り組んでいく予定であり、年間指導計画の中に位置づけ、計画的に実施をしていくことができると思われる。今年度販売をしてみて、福岡リーセントホテルではマスク・マスクカバーやふきんといった実用的な商品の売れ行きがよいことが分かった。次年度は今年度の販売実績を活かしながら販売する商品の種類やデザインを検討したり、展示方法を工夫したりしながら、お客様に購入していただき、生徒が達成感を味わえる活動になるよう進めていきたい。



展示を終えて記念撮影

<ファッションショー>

①実施経過

今回のファッションショーの企画を実施する上で、以下の授業を用いた。

- ・ファッションショー企画・練習等：ファッションデザイン（産業）
- ・来場者へのプレゼント製作：ファッションデザイン（選択）
- ・テーブルコーディネート：ファッションデザイン（産業）・服飾手芸
- ・作品展示：ファッションデザイン（産業）

11月9日(火)～11月18日(木) 「ファッションデザイン(産業)」

○ファッションショーのコンセプト説明・係分担・ショーの話し合い等

ファッションショーの責任者3名を中心に話し合いを進めた。3年生のコンセプトは「ファッションを通し、自分を表現する」ことである。文化祭のファッションショー「I am」の衣装を中心に、「ファッション造形」で制作した卒業作品や「課題研究」で制作した作品を組み合わせ構成を考えた。卒業作品は、個人で自由に制作しているためグループとしてまとめるのは難しい面もあったが、全体のバランスを考えながら、活発に意見交換を行い、使用する衣装や出演順を検討した。

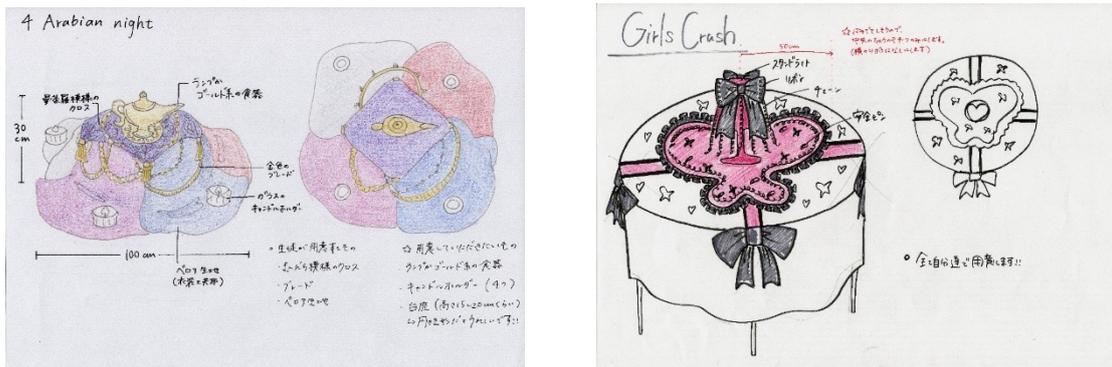
係分担は、文化祭での係をベースに、新しく入ったテーブルコーディネートやプレゼントの係なども加え役割分担をした。

○ファッションショー演出表作成・練習

各グループ(14グループ)、オープニング、エンディングの演出計画を立て、演出表を作成し、照明計画や音響についても検討した。照明は昨年の記録を確認しながら検討したが、実際にどのような照明ができるのか不明な点が多かったため、原案を立て、25日のリハーサル時に確定することにした。

○テーブルコーディネートの完成図・製作内容の計画書を作成

11卓のテーブルに「I am」の小テーマとオープニングのイメージをコーディネートするため、出演する生徒で各グループを担当することにした。デザイン、大きさ、必要な材料、製作工程計画を立てた。計画書は事前にホテルへ提出した。



テーブルコーディネート計画書

○展示計画

展示する衣装の選定や大まかなレイアウトを考え、作品介绍パネルや展示に必要な道具類の確認を行った。

11月25日(木) 9:00～15:00 福岡リーセントホテル

○テーブルコーディネート打ち合わせ

事前に提出していたデザインや必要材料を記した計画書をもとに提案を行った。シート上での打ち合わせとなったが、配色や配置方法など、プロの方からのアドバイスに生徒達も新たな気づきを得た。また、ホテル側で準備して頂けるものなども確認した。



ホテルスタッフの方と
テーブルコーディネートの打ち合わせ

○リハーサル

会場でのリハーサルを行い、演出の確認を行った。音響や照明の打ち合わせを行い、細かいタイミングを合わせていった。昨年の記録等で、照明のイメージはつかんでいたが、思うように進まなかった。実際に使用するステージで練習したことにより多くの改善点が見つかった。

展示に関しては、係の生徒がホワイエやチャペル前、通路などの広さを確認し、展示計画を立てた。利用できるテーブルやソファなどもホテルの方に確認した。



リハーサルの様子

○ポスティング

リハーサル後、チラシのポスティングを行った。ホテル側から、ポスティングに関する注意事項の説明を受けた後、グループに分かれて、ホテルの周辺を中心に1時間程度行い、約2,000部を配布した。

昨年度の反省に基づき、店舗を訪問しての掲示依頼を行わず、戸



ポスティングの様子

建てや集合住宅を中心にポスティングを行った。チラシにはQRコードを載せており、「掲示」ではなく、地域の方やターゲットにしている方に直接届けたいという意図もあった。

短時間で数多くのポスティングが行えたのだが、「ポスティングお断り」の貼り紙がある建物にもポスティングしてしまい、後日ホテルに苦情の連絡が入り、ご迷惑をかけてしまった。

11月29日（月）～12月9日（木）「ファッションデザイン」・「服飾手芸」

○テーブルコーディネート準備

ホテル側にお願いしていた材料やファッションショーの衣装の残り布などを利用し、グループ内で役割分担をしながら計画通りに準備したが、準備をする中で不足しているものが出てきて、ホテル側に再度お願いをしながら進めた。

12月9日（木）の授業で、各グループのテーブルコーディネートを完成させた。今年度は、準備だけでなく、テーブルにセッティングするまでを行うため、ホテルでの準備がスムーズに進むよう仕上がりを写真に収め、準備の日にそれを見ながらセッティングできるようにした。

12月1日（水）～12月8日（水）「ファッションデザイン（選択）」

○来場者へのプレゼントの製作について

「ファッションデザイン（選択）」の授業を用いて、コインパースを製作した。一人3つつつ作った後、プレゼント系の生徒で検品を行い、手直し、ラッピング等を行った。実際にお客様が使っている様子をイメージしながら、素材選びや美しい縫製に取り組んでいた。



コインパースのセッティング



来場者へのプレゼントのコインパース

12月6日（月）・7日（火）「ファッションデザイン」

授業や放課後を使い、ファッションショーの練習を行った。照明やアナウンスは1・2年生が担当するため、放課後の時間を使って、アナウンスや照明のタイミングの確認をした。少ない時間の中で、集中して取り組むことができた。

12月10日（金）13：00～17：00 福岡リーセントホテル（前日準備）

○会場準備について（舞台設営・展示）

昨年同様、会場までの通路やホワイエ、チャペル前に展示を行った。今年度は、テーブルやイーゼルを活用して、イメージマップやファッションショーの写真などを飾り、たくさんの取組を知ってもらえるよう工夫した。また、昨年の反省で靴音が響くという意見があったため、ステージにパンチカーペットを敷いて改善を図った。しかし、階段部分に敷いていなかったため、昇り降りの際には注意が必要であったことと、カーペットが柔らかく、ヒールでは歩きにくいという意見があり、安全面からも改善の余地があると考えた。



舞台設営の様子



チャペル前での展示の様子



通路での写真展示

○テーブルコーディネートについて

事前に打ち合わせを行い、アドバイスをいただいたため、イメージにあったコーディネートの準備ができた。事前に配置の練習をしていたため、スムーズに設置することができた。



テーブルコーディネート

12月11日（土）8：30～15：00 福岡リーセントホテル（当日）

○リハーサル

ランチ前の挨拶からファッションショーまで、一通りのリハーサルを行った。ファッションショーの照明やアナウンスなどは、この時しか合わせることができないため、業者の方から取り扱い方を習い、ピンスポットのタイミングなどに注意しながら取り組んでいた。リハーサル後は、開演の時間まで繰り返し練習を行った。



照明器具の操作方法を確認

○ファッションショーについて

10時半より受付が始まり、ホテルの方と一緒に1・2年生の受付係の生徒が、検温や座席への案内など滞りなく行った。11時にランチ&ファッションショーがスタートした。福岡リーセントホテル支配人、本校副校長、生徒代表挨拶の後、お客様の食事と進んだ。12時50分よりファッションショーが始まった。舞台とお客様の距離が近いこともあり、会場が一体感に包まれたように感じた。お客様に「ちょっと贅沢なひととき」を過ごしてもらえるように、緊張しながらも堂々とランウェイを歩くことができた。終わった後、生徒たちはこのような素敵な場所でショーをさせていただいたことにとても満足し、感謝していた。

また、1・2年生のアナウンスも照明も滞りなく終えることができた。文化祭のファッションショーや校外でのファッションショーなど、場数を踏んでいることも要因と考える。臨機応変に対応できる力がついており、これを次の代へと引き継いでもらいたい。



ファッションショーの様子



お客様のお見送りの様子

②反省・感想

今回のファッションショーは、コンセプトを「お腹と心を満たす、ちょっと贅沢なひととき」としてきたが、アンケート等からそれが概ね達成できたのではないと思われる。また、昨年度の反省を踏まえて、ターゲットに「香椎高校への進学を検討している中学生とその保護者」を追加した。中学生も気軽に参加できる時間にしたことやチラシを中学校へ郵送したこと、特に体験入学に参加した中学生にはチラシが確実に届くようにしたことが、中学生の参加につながったのではないかと推察する。

生徒の中にはまだ自己満足な部分があり、「お客様に満足してもらうためには」という視点で考えることができていないところが見受けられた。会議に参加する生徒が中心になって企画を進めたが、会議の内容が全体へ周知されていないため、このような結果になったものと思われる。この企画に入る際、目的や意図を十分に生徒へ説明する必要がある。

(7) トラックフェス2021でのトラガールの制服製作

福岡県民生部女性活躍推進室からの要請を受け、福岡県で働く女性を応援するもので、女性トラックドライバー（通称トラガール）の制服をデザイン・製作し、10月に行われるトラックフェス2021でファッションショーを行う企画で、男性の割合が高いトラック業界で働く女性を応援し、トラックドライバーという職業に興味を持ってもらうことを目的とした活動である。

令和2年度の7月より、総合的な探究の時間を活用して代表生徒4名による調査研究活動を行った。運送会社のドライバーの制服を調べたり、女性トラックドライバーに直接インタビューやアンケート調査を行った。インタビューには、佐川急便株式会社東福岡支部に協力いただき、制服に欲しい機能や、現在の制服で困っていること等の情報を得た。シルエットや色等のデザインに関する要望と、素材や性能といった機能性に関する要望が挙げられ、その調査結果をもとに制服のデザインを考えた。



佐川急便の女性ドライバーへのインタビューの様子

- 男女兼用であるため腰回りがきつい
- 前かがみになると胸元が見える
- 作業中ズボンが裂ける
- トイレに行きづらい
- 制服のまま外食ができない
- 雨でインナーが透ける
- 日焼けが気になる



佐川急便の女性ドライバーの制服についての悩み

本年度は、代表生徒が調べた情報を共有し、クラス全員で製作を行った。

調査結果をもとに、昨年度の代表生徒がデザインした制服に加え、機能性を重視した制服とデザイン性を重視した制服の各4着、計8着を製作することにした。グループに分かれてデザインを考え、クラス内で検討を重ね、実際に使用できるものになるように工夫した。



デザイン検討会の様子

トラックフェス2021は、新型コロナウイルス感染防止の観点により、集客を伴うイベント形式からオンライン形式での開催となることが決まり、ファッションショーではなくショートムービーを作成し放映するよう変更された。

7月21日に、試作した制服について、女性活躍推進室、福岡県トラック協会、KM運輸株式会社、映像制作会社の方々に向けてプレゼンテーションを行いご意見を伺った。「ズボンの裾の形は安全上タイトなデザインにすべき」「胸下のポケットや装飾品は、抱えた荷物を傷つける可能性がある」など、実際に運転手の目線で助言を得ることができた。撮影当日、代表生徒が製作した制服を着用することになった、女性ドライバーの木村さんから「女子高校生らしい発想のポップな衣装を期待しています」という御意見をいただいた。



制服試作品のプレゼンテーションの様子



ドライバーにご助言を頂いている様子



制服デザイン画

8月には、得られた意見を元にデザインを改善した本番用の制服を完成させ、9月に撮影を行った。事前に絵コンテを貰い、配役や制服を着るモデル決め、メイクや撮影場所の打合せを映像制作会社と行った。感染症対策のため短時間で、全員マスクを着用した状態で撮影した。撮影の際はカメラマンから、制服を映えさせるための動き、こだわりや雰囲気アピールするポージングなどの指導を受けることができた。



撮影の様子

10月9日に YOUTUBE LIVE にてトラックフェス2021が開催され、香椎高校のショートムービーが放映された。後日、アーカイブが福岡県トラック協会のアカウントで視聴できるようになった。また、作成した制服やショートムービーは、福岡県女性活躍推進室のホームページ上で紹介され、福岡県トラック協会のリーフレットにも掲載される予定である。



トラックフェスで放映されたショートムービー

<生徒感想>

- ファッションとしてだけでなく、職業服として機能性を備えた制服を製作できたことは、とても大きな学びになった。
- 自分以外の人の為の服を作ったのは初めてで、いつも以上に丁寧に美しい衣装を作ろうという気持ちでのぞむことができた。
- 初めてのことばかりだし時間も無くて大変だったけど、2年生だけで行った初めてのFD科の行事だったこともあって、クラスの皆で動画を見た時の嬉しさと達成感を凄く感じる事ができた。
- トラック協会や運送会社、カメラマン等、普段関わることのできない職業の人と関わる事ができて、普通の授業では体験できない貴重な経験だと思った。
- 私たちの作った制服や配信された映像を見て、トラックドライバーという職業に興味を持ってくれる人が少しでも増えてくれたら嬉しい。

(8) 国内研修旅行

本校には、普通科（各学年8クラス）とファッションデザイン科（各学年1クラス）が併設されているが、ファッションデザイン科では、平成28年から普通科とは別に、カナダでの海外研修を実施してきた。ところが、新型コロナウイルスの感染拡大により海外研修の実施はできなくなり、令和2年度は予定を変更し、普通科と一緒に修学旅行を実施した。

本年度も、ぎりぎりまで海外研修実施の方向で検討したが、国内研修旅行に切り替え4泊5日で北陸・中部地方を訪問した。景勝地を散策して大自然の美しさに触れたり、工芸体験を通して、日頃の授業で学んでいる技術を発揮したり、輪島塗や加賀友禅など、日本の伝統工芸の技術の高さや美しさを感じることや、本物に触れ、感性を育てるよい研修となった。



輪島塗沈金体験



加賀友禅体験



兼六園

企業研修では、福井県の縫製工場である、株式会社モンスターを訪問した。生徒全員が初めての縫製工場見学で、プロの仕事や設備を間近で見たり、職員の方にご指導いただきながら特殊ミシンを操作させていただいたり、貴重な経験をさせていただいた。急な依頼にもかかわらず、生徒の訪問を快諾いただき、また、実際に工場で製品が製作されている様子を見て、縫製に関する意識が変わった生徒もあり、大変有意義な研修となった。



工場見学

研修旅行の日程

- | | |
|--------|--|
| 10月31日 | 福岡空港→小松空港→輪島漆芸美術館（石川）→輪島塗しおやす漆器工房（石川）→ホテル（石川） |
| 11月 1日 | 東尋坊→モンスター（福井）→めがねミュージアム（福井）→ホテル（石川） |
| 11月 2日 | 兼六園（石川）→加賀友禅会館（石川）→ひがし茶屋街（石川）→富山県美術館（富山）→ホテル（富山） |
| 11月 3日 | 立山駅（富山）→立山・黒部アルペンルート→扇沢（長野）→ホテル（長野） |
| 11月 4日 | 松本城・縄手通り（長野）→松本空港（長野）→福岡空港 |

(9) 郷土の一級品に触れる実習・体験活動

本活動は、地元地域が誇る伝統工芸に直に触れる実習・体験を通し、それらの背景となる考え方や価値観等について理解を深め、多様な「美」の文化を柔軟に受け入れる資質・能力の育成を目的とし、12月に波佐見町陶芸の館、博多織工芸館を訪問した。事前アンケートでは、小石原焼きや有田焼、博多織などは知っているが、中学校までの学習を通して名前を聞いたことがあるという程度と答えた生徒が多数であった。波佐見焼については全く知らないと答えた生徒が多く、今回の活動に向け、「インターネットだけの情報でなく実際に見たり触れたりすることで素材や柄、模様の繊細さを見たい」「伝統文化をどうやってつなげているのか知りたい」などの目標を挙げていた。

波佐見町陶芸の館では、絵付けの体験や波佐見焼の歴史に関する講義・見学等を行い、戦時中は手榴弾を入れる用途にするなど、長い歴史の中で各時代に応じて波佐見焼が使われたことが印象に残った。また、伝統を感じつつも現代的でおしゃれな柄が多く、幅広い作品があることを知ることができた。博多織工芸館では、博多織についての講義・工房見学を行った。博多織は生徒にとって高級品で身近にはないイメージがあったが、博多織の成り立ちや献上柄の説明、手織りの体験などを通して、自分たちの住む地域に伝わる伝統工芸品のすばらしさを直に感じる事ができた。

事後のアンケートにおいてもほぼ全員が伝統工芸品への興味・関心が高まったと答え、今後の自分たちの学習に生かすことのできる貴重な体験となった。

<生徒の感想>

- 波佐見焼は多くの手間と時間を費やして作られているものであり、時代によって焼く温度や形が異なっていたのが印象的だった。
- 博多織は、光の当たり具合によって柄や色の見え方が変わったり、近くで見ると細かい柄が見えたりと多くの工夫がされていて、とてもきれいだった。
- 博多織は780年という長い歴史があり、今も昔も顧客のニーズに応じてきたことが分かった。デザインの良し悪しも自分が決めるのではなく、お客様の要望に応えることが必要で、デザイナーをめざす私にとっても忘れてはいけないことだと思った。



絵付けしたお皿が完成！！



波佐見焼絵付け体験中



機織り体験中

(10) 海外オンライン研修プログラム

2年生を対象に、令和4年1月26日(水)10:00~11:50にZoomによる海外オンライン研修プログラムを実施した。本来であれば、海外研修でカナダ(トロント)を訪問する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、国内研修旅行に変更したため、その代替プログラムとして、英語科の教員と協力しながら実施をした。

海外のファッション業界で活躍する専門家との交流を通して、ファッションデザインに関する専門性の向上を図るとともに、豊かな国際感覚を身に付けさせキャリアアップを目指すことと、海外のファッションに関する情報収集や海外に向けた情報発信ができる実践的な英語力の向上を図ることを目的としている。

講師はアメリカ(ロサンゼルス)にあるファッション学校LYFCO.の学校長ビバリー・エリ氏で、次年度のファッションショーの衣装コンセプトやデザインについて一人ずつ英語でプレゼンテーションを行い、助言・指導をしていただいた。

英語によるプレゼンテーションの指導は、「コミュニケーション英語Ⅱ」の時間に、教科担当とALTが行った。最初は緊張して早口で説明をしたり、声が小さかったりしていたが、一人ひとりに丁寧にコメントをくださる講師の言葉に一生懸命耳を傾けて理解しようとし、質問に対してしっかりと英語で答えようとする姿が見られた。

プレゼンテーション後の質疑応答では、ファッション業界でプロとして働くために必要なことや、仕事の内容等についても御指導いただいた。



オンラインでプレゼンテーション

<生徒感想>

- 英文を書いたり話したりする力はもちろん、聞き取る力も使わなくてはいけないので、普通の授業では味わえない緊張感や達成感が得られました。
- 緊張したけど、衣装についてしっかり見て下さり、たくさんプラスな言葉をかけて頂けたのでうれしかったです。
- 英語が苦手だから海外の仕事にはあまり興味が無かったのですが、自信がついたし色々なことを調べてみたいと思いました。
- 海外の方と実際に話すにはちゃんと伝わるように、アクセントやトーンをいつも以上に気にしてたくさん練習しました。



プレゼンテーションを聞いている様子



デザイン画について英語でプレゼンテーション

(11) インスタグラム

ファッションデザイン科の特色ある教育活動やイベント等に関する情報をリアルタイムで発信し、保護者や同窓生等の本校関係者をはじめ、不特定多数の方々に広く周知することを目的として、昨年度公式インスタグラムを開設し、本年度も引き続き毎週金曜日に投稿を続けた。

投稿する内容はすべて生徒に考えさせ、水曜日の昼休みまでに投稿内容を書面で提出させた後、担当職員で確認し、毎週金曜日に更新している。また、投稿の際はファッションデザイン科職員が監督し、生徒個人のスマートフォンなどの端末は使用させず、すべて学校の生徒用パソコンを使用した。パスワードは昨年度のものから変更し、更新の作業を行う生徒たちのみで共有するなど、最大限の安全対策を取りながら運用を続けている。

インスタグラムのフォロワーについては、昨年度、開始直後は順調にフォロワー数が伸び、年度末は270人前後で安定していた。4月に本校入学生全員に、この取り組みを紹介するためのプリントを配布した。その効果もあり、5月に入ると300人を超え、その後も少しずつ増加を続けた。また、7月や10月に行われた中学生の体験入学、各中学に出向いて行う出前授業、校外で行うイベント等でも広報活動を継続した結果、現在は420人まで増加している。また、長期休業を除き、毎週金曜日にファッションデザイン科各学年の様々な活動を投稿することも要因の一つと考えられる。今後もこの活動を継続しながら各方面に広く周知し、生徒のモチベーションにもつながるように、ファッションデザイン科の活動を多くの方々に興味を持ってもらいたい。



香椎高校ファッションデザイン科
Instagram



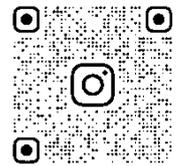
インスタグラム 香椎高校ファッションデザイン科(kashil_fd)より引用



香椎高校ファッションデザイン科
Instagram



インスタグラム 香椎高校ファッションデザイン科(kashil_fd)より引用



KASHIL.FD

(12) 校外での作品展

コロナ禍で生徒たちの発表の場が制約される中、福岡リーセントホテル以外でも作品展を実施することができた。

①アイランドアイ文化祭での展示 令和3年11月13日(土)～14日(日)

アイランドアイは今年度、福岡ファッションインキュベータに加入いただいた協力機関の一つであり、「いつ来ても、どこを歩いても「新しい一日」と出会える」をコンセプトに、子どもからお年寄り、地元住民、観光客など、幅広い層をターゲットにしている商業施設で、ショッピングやグルメはもちろん、劇場や会議場、ホテル等がひとつになった複合施設である。こちらの施設で地域を対象とした文化祭が催された際に、生徒の作品の展示をさせていただいた。

展示スペースがフードコート近くの通路沿いであったため、ターゲットを地域のファミリー層とし、リメイクコンテストで制作した作品や女性トラックドライバーのユニフォームを中心に、見ていて楽しくなるようなカラフルでポップな作品の展示を行った。



アイランドアイ文化祭での展示の様子

②ファッションデザイン科作品展「epoch」 令和4年3月23日(水)～4月3日(日)

本事業1年次に、福岡県商工部から福岡市内にある貴賓館(旧福岡県公会堂貴賓館)での作品展示等の依頼があった。貴賓館は、明治時代に来賓接待所として建設されたものであり、フレンチ・ルネッサンス様式を基調とする木造建築物で、国指定重要文化財である。明治時代の古きよき歴史情緒を感じる貴重な建物で、多くの観光客も訪れている。ここでの展示は、生徒の作品を地元の方々だけでなく、観光で福岡を訪れた多くの方々にも御覧いただくことができるよい機会であり、準備を進めていたのだが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となってしまった。

今年度、「課題研究」でアールヌーボー時代の衣装について調査・制作したグループがあり、貴賓館での展示を強く希望して、連絡を取ったところ、作品を展示していただけるとの回答を得た。



「課題研究」生徒作品

打ち合わせに伺った際に貴賓館側から、ファッションデザイン科の作品展にすることについて提案があり、「課題研究」で制作した作品以外にも、ファッションショーの衣装や「ファッション造形」で制作した卒業作品の中から、歴史的建造物である貴賓館のイメージに合う作品を選び展示することとした。

作品展のテーマ「epoch」は時代という意味だが、ご来場いただいたお客様に時代を感じていただき、これから続いていく未来に思いを馳せていただきたいという思いが込められている。多くのお客様に、生徒たちの思いが伝われば幸いである。

作品展のテーマ「epoch」は時代という意味だが、ご来場いただいたお客様に時代を感じていただき、これから続いていく未来に思いを馳せていただきたいという思いが込められている。多くのお客様に、生徒たちの思いが伝われば幸いである。



貴賓館外観



展示に使用する部屋

3 学校設定科目について

本校では、令和4年度の新学習指導要領の施行に伴い、カリキュラムを変更することとした。以下に示した表が、ファッションデザイン科の新カリキュラムである。ここでは、「ファッション」と学校設定科目「ファッションビジネス」の授業内容について説明する。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年	家庭基礎	生活産業基礎	ファッション造形基礎				ファッションデザイン			現代の国語	言語文化	地理総合	数学Ⅰ		体育	保健	英語コミュニケーションⅠ			情報Ⅰ	HR													
2年	生活産業情報	服飾文化	ファッション造形		ファッションデザイン		服飾手芸	ファッションビジネス	論理国語	古典研究	公共	数学A	科学と人間生活	体育	保健	美術Ⅰ	ファッションコミュニケーションⅠ		HR															
3年	課題研究		ファッション造形		ファッションデザイン		服飾手芸	ファッションビジネス	論理国語	古典研究	歴史総合	生物基礎	体育	美術Ⅱ	ファッションコミュニケーションⅡ		HR																	

(1) 「ファッションデザイン」の授業内容について

下表のとおり、1年生では1単位増加に伴い、コラージュの作成やトレンドの研究などを行い、ファッションデザインの考え方や流行について学び、創造性豊かな感性の育成を目指す。2年生は、単位数の増減はないものの、これまで扱ってきたファッション販売に関する内容を学校設定科目「ファッションビジネス」で扱うこととし、授業内容の精選を図った。3年生では、全員履修7単位のうち、3単位で実施している商品企画実習を学校設定科目「ファッションビジネス」で扱うよう変更した。また「ファッションデザイン」2単位は、「美術Ⅱ」との選択科目としていたが、全員が「美術Ⅱ」履修に変更した。

	現 行	令和4年度以降
1年	単位数：3 ・色彩やデザイン画の描き方に関する内容	単位数：4 ・色彩やデザイン画の描き方に関する内容 ・デザインの発想と表現、トレンド研究
2年	単位数：2 ・色彩やファッション販売、サービス接遇に関する内容	単位数：2 ・色彩、サービス接遇に関する内容
3年	単位数：7(全員)+2(美術Ⅱとの選択) ・商品企画実習 ・ファッション産業に関する内容 ・サービス接遇に関する内容	単位数：4 ・ファッション産業に関する内容 ・サービス接遇に関する内容

(2) 学校設定科目「ファッションビジネス」の授業内容について

現行のカリキュラムでは、3年生が「ファッションデザイン」3単位の中で、「商品企画」と称してアパレル業界の仕組みについて理解し、商品の企画・製作から販売までの一貫した流れを実践的に学習している。ここ数年間の商品企画の学習において、前年度の内容を踏襲しつつ、さらにブラッシュアップしながら進めることができおり、学びの高度化が図られている。本研究において、ファッション業界やアパレル企業など社会で活躍されている方から話を聞く機会が多くあり、「自分が作りたいものや好むものではなく、消費者が求めているもの、良いと思うものを作り出すことが大切である」と教えていただき、生徒の印象にも強く残っている。卒業時の進路に関して、販売や縫製などの職種だけでなく、企画などについて興味・関心をもつ生徒も増え、ファッション業界を広い視野で捉えることができるようになってきた。

以上の観点から、来年度より学校設定科目を設け、2年生で「ファッションビジネス」1単位、3年生で「ファッションビジネス」3単位とする予定である。学習内容について、現在の3年生が商品企画の演習から実践的な実習へと1年間で実施しているものを、2年生で演習の部分を扱い、3年生では年度当初から商品企画実習に入るようにし、時間的な余裕を持たせ、商品企画の各ステップの深化を図ることを狙っている。

次に、2年生「ファッションビジネス」1単位の学習指導計画を示す。

○年間指導目標

ファッション産業の仕組みや動向の概要、業務などを学び、商品を生産・販売するために必要な知識や技術を高めさせる。これを基に、商品の企画・販売の実習を通して一連の流れを体験させ、将来ファッションビジネス業界で活躍するための素地を育成する。

○評価規準

- ・ファッション産業の仕組みや動向の概要、業務などについて理解できる。
- ・ファッション産業の仕組みや商品企画の課題を発見し、学校行事等の展示や演習など実践的な活動を通して課題解決に向けて考え、工夫することができる。
- ・ファッション産業の仕組みや商品企画に関して興味を持ち、主体的、協働的に取り組むことができる。

○使用テキスト

- ・一般財団法人日本ファッション教育振興協会著「ファッションビジネス2級 新版」

○指導内容

学習内容	指導上の留意点
(1)マーケティングとマーチャンダイジングについて	<ul style="list-style-type: none">・マーケティングの基本的な考え方を理解させる。・マーチャンダイジングについて、5適の基本要素をもとに理解させる。・様々な販売方法について調査し、メリット・デメリットを挙げさせ、ファッション産業の仕組みを理解させる。・VMDの実践として文化祭の展示等を取り上げ、効果的な方法について考えさせ、工夫させる。

<p>(2)商品企画演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ターゲット企画 ②情報企画 ③コンセプト企画 ④コーディネート企画 ⑤アイテム企画 ⑥デザインング ⑦プロモーション企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・演習の最初は、生徒がアイデアを出しやすいものを題材とする。 例：「コンビニスイーツ」「シャンプー」など ・ターゲット設定には、ライフスタイルやニーズなど社会や経済状況を加味することを理解させる。 ・情報企画では、トレンド予測をし、調べた内容をファッションマップとして表現させるなど工夫する。 ・コンセプト、コーディネート、アイテム企画では、「ファッションデザイン」「ファッション造形」で習得した知識・技術を活用させ、科目横断的な視点をもって取り組ませる。 ・サンプル製作を行う際は、計画的に行わせ、これまで学んだ知識を応用できる能力を育成させる。 ・商品は、何度もブラッシュアップを繰り返して商品が出来上がることを経験させ、主体的かつ協働的に取り組ませる。
--	--

「ファッションビジネス」については、授業担当者だけではなく、学科全員で内容を検証しながら実施していく。

4 福岡ファッションインキュベータについて

(1) 設立経緯

高等学校専門学科の中で家庭に関する学科の生徒数は、他と比較して大きく減少しており、生徒のニーズに対応できていない可能性が推察される。特に被服については、商品製作に係る職業は機械化が進み、その多くは海外で生産されるなど、被服製作技術を活用した国内での就業機会は減少している。また、販売に関する業態も大きく変化し、店頭販売からネットショッピングやカタログ販売等へ移行しており、今後は店舗での就業機会も減少すると推察される。

こうした変化に対応し、高等学校での学びが社会生活を送る上で自分の強みとなりうる授業等の実施が求められている。これを継続的に可能にするため、ファッションに関する各分野において、高度な専門的知識や経験が可能となる場を有する個人・団体に協力を要請し、ファッション業界での活躍を目指す高校生を支援する組織として、福岡ファッションインキュベータを設立した。

研究指定が終了する令和4年度以降は、事務局の運営を民間企業が担うとともに、本校のみならず服飾を学ぶ課程を有する県内公立高校を対象を拡大し、県内全域での被服に関する技能の高度化と一般への価値観向上を目指す。

■高等学校における学科別全国生徒数（文科省）

学科	調査年度	生徒数	調査年度	生徒数	増減率
普通	昭和30年	1,538,093	令和元年	2,308,014	150%
情報	平成17年	2,253	令和元年	2,739	122%
福祉	平成17年	7,574	令和元年	8,242	109%
工業	昭和30年	237,328	令和元年	239,204	101%
水産	昭和30年	11,755	令和元年	8,500	72%
看護	昭和50年	25,736	令和元年	13,678	53%
商業	昭和30年	366,928	令和元年	185,061	50%
農業	昭和30年	201,772	令和元年	77,836	39%
家庭	昭和30年	211,981	令和元年	38,001	18%

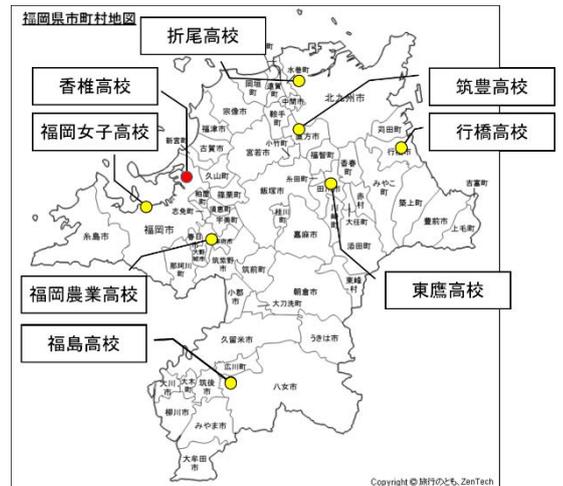
■福岡県内における服飾に関する課程を有する高等学校

【福岡地区】
 香椎高等学校 ファッションデザイン科
 福岡女子高等学校 服飾デザイン科
 福岡農業高等学校 生活デザイン科

【北九州地区】
 折尾高等学校 生活デザイン科
 行橋高等学校 生活デザイン科

【筑豊地区】
 福岡高等学校 生活デザイン科

【筑東地区】
 筑東高等学校 生活デザイン科
 東唐高等学校 総合生活科



(2) 目的

現状の課題解決のためには、社会的ニーズに応じたより高度な技能を有する人材の育成と、育成した人材が活躍できる場を地元福岡に構築することを継続的に可能にする必要がある。

■行政機関、大学、地場産業等との協働により、高度な技術を有するとともに福岡を愛し、福岡のファッション業界を担う人材を育成する。

■福岡のファッション業界に関連する企業・学校・行政等による組織的連携により、福岡のファッション業界の活発化を図る。

(3) 組織構成

ア 加盟団体

加盟団体には、指導に関して支援する「サポート団体」と資金的な面を支援する「スポンサー団体」の2種を設定した。「サポート団体」は、専門的知識や技術を有する人材や、実践的な活動による職業認識の場といった、生徒の育成に必要となる強みを有する企業や学校等であり、指導に係る活動に旅費や謝金の支給は行わないことを承諾している。「スポンサー団体」は、販売する商品の開発や試作を含めた製作に係る諸費用の捻出に課題が生じるため、これを解決するための方策として考案されたものであり、今後、企業等に協力を要請していく。

【サポート企業】

①民間企業

株式会社ワールドストアパートナーズ九州沖縄事業所／小竹正株式会社／株式会社 WEBUO
ブックオフコーポレーション株式会社／一般社団法人進路指導・キャリア教育支援機構
island eye／福岡リーセントホテル
社会福祉法人福岡コロニー障害福祉サービス事業所なのみ工芸

②学校関係

日本経済大学／香蘭女子短期大学／香蘭ファッションデザイン専門学校
学校法人滋慶学園福岡ウエディング&ホテル・IR 専門学校／大村美容ファッション専門学校
学校法人滋慶学園福岡デザイン&テクノロジー専門学校

【スポンサー企業】

今後、賛同いただける企業に要請する。

イ 運営

福岡ファッションインキュベータを運営する「福岡ファッションインキュベータプロジェクト実行委員会」、福岡ファッションインキュベータの公益性への理解と運用の公正性・透明性の維持・管理を目的とした「諮問委員会」を設置した。

なお、基本的な運用については諮問委員会の意見を伺いながら実行委員会が行い、年1回の定期総会及び必要に応じて開催する臨時総会にて、全団体の承認を得る。

実行委員会内に事務局を置き、事務運営及び自主事業等を行う運営部と、学校からの依頼等により実施する支援事業等について調整等を行う支援部により活動する。

【組織構成】

①総会（定期・臨時） 福岡ファッションインキュベータ全団体代表

②実行委員会

実行委員長 福岡県立香椎高等学校長

副実行委員長 大学等関係者2名

実行委員 サポート団体代表2名、スポンサー企業代表2名、参加高等学校長

事務局 運営部長（民間企業1名）／事務局員（同企業職員）

支援部長（香椎高等学校副校長）／事務局員（本校及び参加校担当教諭）

③諮問委員会

福岡県商工部新事業支援課、福岡市経済観光文化局国際経済・コンテンツ部コンテンツ振興課
福岡商工会議所産業振興部、福岡県教育庁教育振興部高校教育課

④監査（適任者に依頼）

(3) 事業内容

事業は、高等学校所属期間への支援、進路先所属期間への支援、就業時または就業後にキャリアアップを図る際や起業する際の支援の3つのフェーズで支援を行う。また、運営部は加盟団体間の交流に関する事業も企画、支援部は高校卒業後の生徒への情報提供等の役割も担う。

ア フェーズ別支援の概要

第1フェーズ：高校所属（授業の一環としての支援）

第2フェーズ：進路先所属（個人の希望による技能等獲得への支援）

第3フェーズ：キャリアアップ（個人の希望による技能等獲得や起業に係る支援）

イ 運営部事業

①プロモーションイベント：「 FFI Online Fashion day2022 」の実施

②トレーニングイベント：「 リメイクファッションコンテスト 」の実施

③定例セミナー：在校生・卒業生を対象とした講習会の開催

④マネジメント業務：HP・メール等管理、情報発信、新規事業企画 等

ウ 支援部事業

①育成支援：講義、指導、視察、体験等の要請に関する各参加高校との窓口業務

②情報支援：職業特性、業界動向、起業プロセス等に関する情報の収集及び提供

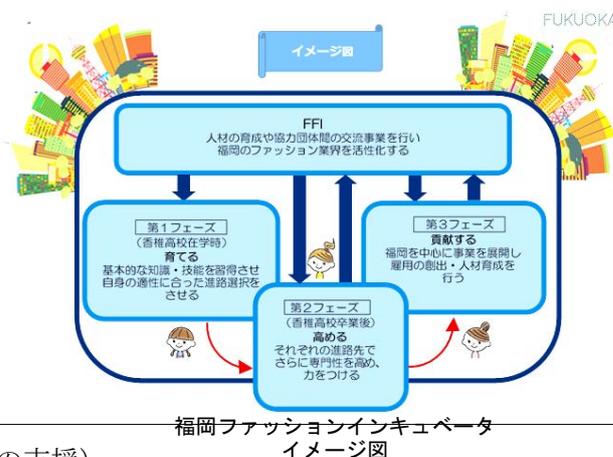
(4) 運営予算

運営にあたり必要となる予算は、団体からの支援金や行政機関等が持つ事業予算による、事業実施に係る支援金等を予定している。

同窓会等学校支援団体による支援金／スポンサー団体支援金
行政・財団等による事業支援金／サポート団体負担

(5) 活動目標

本組織は、人材の育成及び育成した人材による福岡のファッション業界の活性化を目的としており、その達成には時間を要することから、最終的なゴールを2030年度に設定し、3年ごとに目標達成度を確認しながら、活動内容の見直しを行うこととした。具体的な目標項目は FFI 加盟団体数、支援者数、雇用者数とすることを原案とし、3年ごとの目標数値を来年度の FFI 会議により設定する。



IV 研究成果の普及方法

1 今年度の事績

(1) ポスター・リーフレットによる広報

昨年度末に制作したポスターやリーフレットを関係各所に掲示していただき、関係者のみならず不特定多数の一般の方々にも周知を行った。

(2) 全国産業教育フェア

10月30日（土）に実施された、全国産業教育フェア埼玉大会において、生徒による本事業の成果発表を行った。コロナ禍のため、オンラインでの開催であったが、生徒の目線で、本事業での取組について発表を行った。



産フェア参加の様子

(3) 香椎高等学校創立100周年記念式典生徒研究発表

本校の創立100周年記念式典の際に実施された生徒研究発表で成果発表を行った。全校生徒の他、コロナ禍で大幅に人数を減らしたが、本校ゆかりの御来賓の方々にもむけて、発表を行った。



創立100周年記念式典での
生徒研究発表

(4) 福岡県高等学校産業教育振興会家庭部会学科主任会議

この3年間の取組と福岡ファッションインキュベータについて周知を行った。

2 今後の予定

(1) 令和4年度全国高等学校長協会家庭部会 被服・服飾デザイン系高等学校長会 第17回総会・研究協議会での研究発表

次年度栃木県で実施される研究協議会で、研究発表をする予定である。本事業の実践や成果等について報告し、服飾を学ぶ生徒や先生方に役立てるように努めたい。

(2) 福岡ファッションインキュベータホームページの活用

福岡ファッションインキュベータを活用して実施した事業については、随時掲載をしていく。

URL <https://ffi2020.net>

(3) SNSの活用

本校では、毎週金曜日に生徒によるInstagramの投稿を行っており、本事業で構築した企業等とのコラボレーション事業や特別授業等について、引き続き生徒目線で発信していく。



福岡ファッションインキュベータホームページ

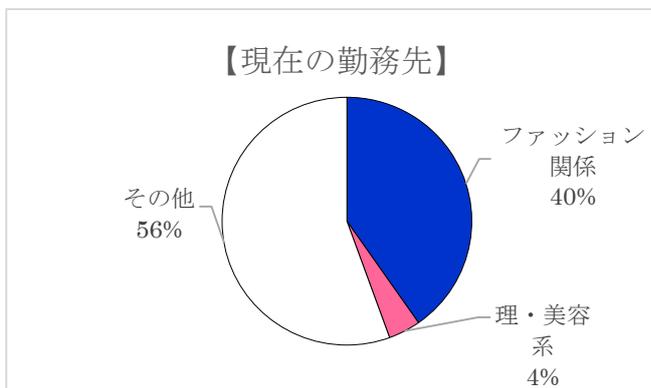
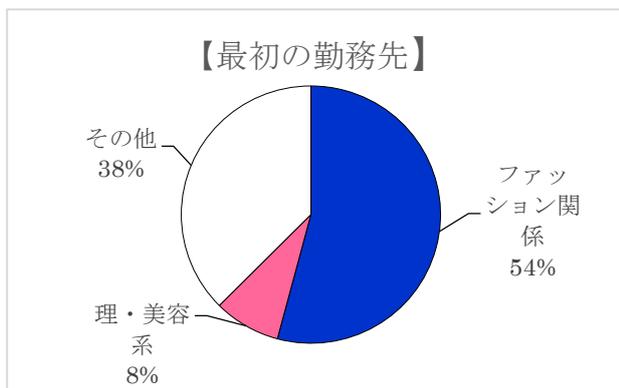
V 実施による結果とその評価

1 本校生徒の特長に応じた指導の展開

(1) 卒業生アンケート調査

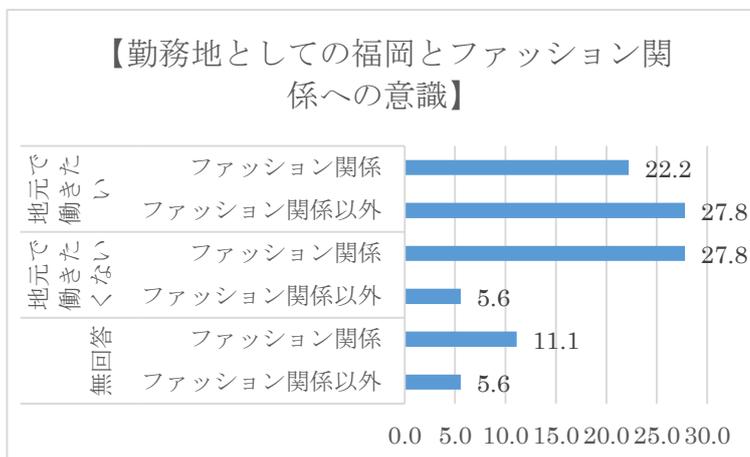
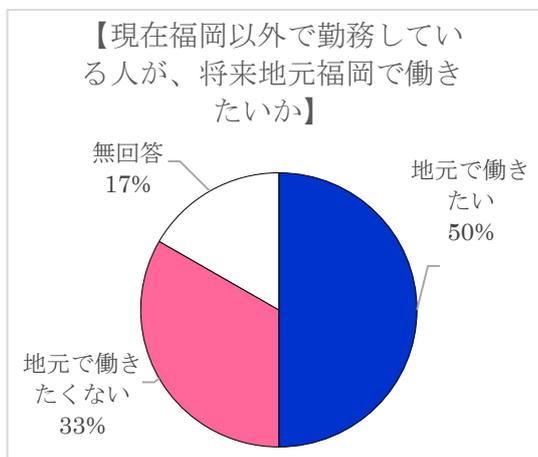
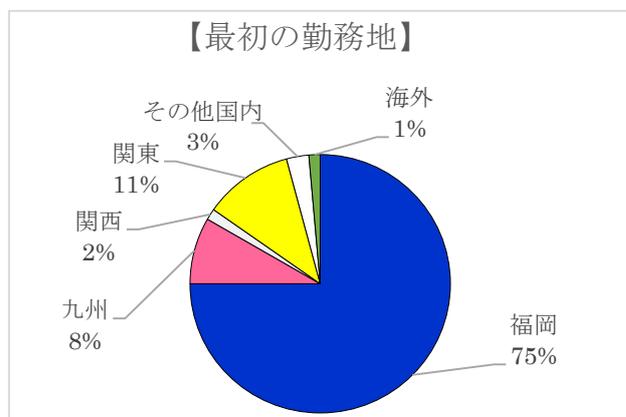
ア 勤務先（職種）調査結果

過去15年間の卒業生を対象にアンケートを実施し、勤務先の変化について調査した。最初の勤務先はファッション関係が54%と半数以上であったのに対し、現在の勤務先では40%に減少している。同じく理・美容系も減少している。一方で、その他の割合は増加しているが主婦業も含まれるため、他業種への就職が増えているとは一概に言えない。しかしながら、ファッション関係や理・美容系は勤務の継続が難しいという現状がうかがえる結果となった。



イ 勤務地調査結果

最初の勤務地では75%が福岡に勤めており、地元へ就職する傾向が強いことが分かる。次に、現在福岡以外で勤務している方を対象とした将来福岡で働きたいか、という質問には半数の50%が働きたいと回答しており、働きたくないと回答した33%を上回った。しかしながら、勤務先がファッション関係の方は働きたくないと回答している割合が高く、その理由に福岡での仕事のレベル、範囲、量、市場に対する不安といった声があり、課題が浮き彫りとなった。



ウ 考察・まとめ

卒業生の半数以上がファッション関係に就職しているものの、継続して勤務する割合は減少しており、今後はいかに離職を減らし、専門知識を持った人材が長く活躍できるようにするかが課題である。一方で、高校時代に学んだ基礎知識がファッション関係への高い就職率に影響しているとも言えるため、在校生の専門職への職種に期待したい。また、勤務地調査の結果において県外から見た福岡におけるファッション業界の厳しい現状を読み取ることができ、課題を実感すると共に解決に向けた取組を地域との協働の中で今後模索していく必要がある。

(2) ファッションデザイン科在校生アンケート調査

ア 本校ファッションデザイン科アンケート調査結果

進学に際し、本校ファッションデザイン科の生徒を調査した結果、ほとんどの生徒がファッションデザイン科に興味を持って入学しており、「ファッションショーができる」や「縫製技術が学べる」等、専門的な技術・技能の習得に意欲をもっていることが分かる。一方、海外研修旅行への期待感は減少する傾向が見られる。

香椎高校 FD 科の進学を決めた理由は何ですか？	割合		
	令和元年	令和2年	令和3年
1 学力がちょうどよかった	3%	5%	3%
2 香椎高校に入りたかった（普通科でも FD 科でもよかった）	5%	7%	3%
3 香椎高校 FD 科に興味があった	92%	88%	94%

香椎高校 FD 科で一番魅力を感じた部分はどこですか？	割合		
	令和元年	令和2年	令和3年
1 縫製の技術を身に付けられる	58%	57%	61%
2 海外研修旅行がある	49%	60%	49%
3 体験的な学習が多い	41%	51%	48%
4 ファッションショーをすることができる	56%	62%	65%
5 デザイン画を学ぶことができる	33%	26%	41%
6 ファッションやデザインについて学ぶことができる	57%	63%	66%
7 色彩に関する資格を取得することができる	38%	39%	42%
8 ファッション販売に関する資格を取得することができる	32%	20%	25%
9 サービスや接遇に関する資格を取得することができる	27%	23%	31%
10 特になし	3%	1%	0%

イ 本校ファッションデザイン科進路意識調査

本校卒業後の進路選択について、「高校卒業後すぐ、理想とするファッション関係の仕事に就くことができれば就職を希望しますか」という問いに対し、42%の生徒が希望すると回答しているが、その一方で、58%の生徒が高校卒業後に就職を希望していない。その理由として、「もっとファッションやデザインの勉強がしたい」、「もっと知識を深めたい」といった回答が多く、より高度な技術・技能等の習得を求めていることから、ファッション業界に対する高い志が伺える。

ウ 考察・まとめ

本校のファッションデザイン科に入学する生徒の大半が、ファッションやデザインに関心を持って入学してきており、ファッションショーやデザイン画・縫製・色彩など専門的な技能・技術が習得できることに魅力を感じ進学してきている。高校卒業後の進路としては、多くの生徒が大学・短大・専門学校等の上級学校への進学を希望しており、更に高度な技能・技術の習得を目指している。就職を希望する生徒の多くが、ファッションに関する専門性を生かせる職業を選択していないことから、今後、就職に直結するような実践的な技能・技術を習得させるだけでなく、高校卒業後に専門職に就職できる県内ファッション業界の雇用体制の充実が求められる。

(3) 在校生の自己能力認識調査

ア 調査概要

令和元年度～令和3年度の本校生徒の自己能力認識調査の分析を行なった。内容は、「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの分野を各4項目全30問で構成されている。

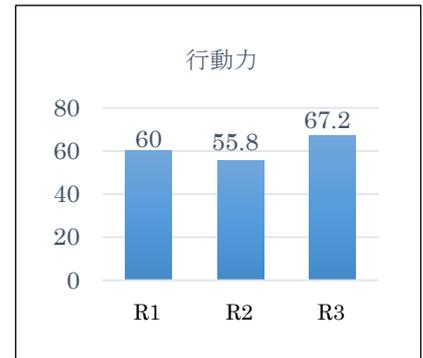
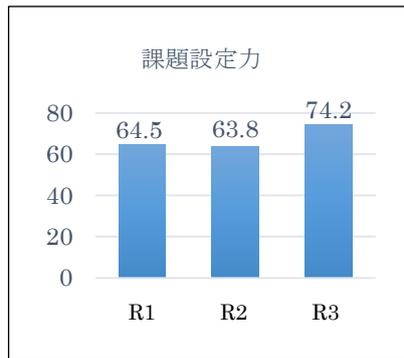
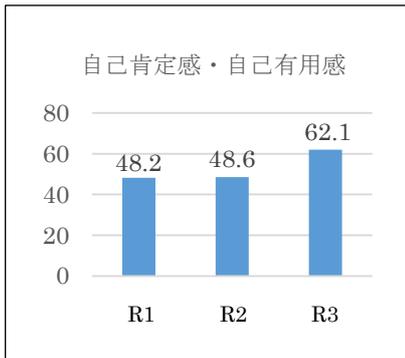
本校生徒の3年間の推移を見てみると、3分野とも向上していることが分かる。特に、探究性分野においては肯定的な回答が著しく上昇している。また、社会性分野においても肯定的な回答が上昇している。

能力	項目	問数	平均値		
			令和元年	令和2年	令和3年
主体性	4項目	7問	61.7%	62.5%	68.9%
協働性	4項目	5問	79.9%	76.6%	77.9%
探究性	4項目	7問	57.9%	63.0%	75.0%
社会性	4項目	11問	54.0%	54.4%	61.5%

イ 項目別調査結果

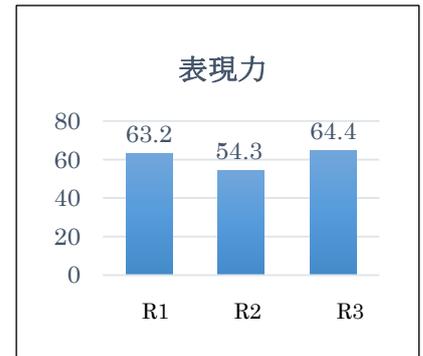
①主体性

新型コロナウイルス感染症の影響で度重なる変更を余儀なくされたことに起因すると思われるが、「上手くいくかわからないことにも意欲的に取り組むことができる」という問いに対し今年度は、肯定的な回答が急激に低下した。しかし、主体性全般においては、この3年間で上昇しており、その要因として本校では、「自ら考え、情報を収集・選択でき、主体的に行動する人材の育成・輩出」という教育目標を掲げ教育活動を実践しており、失敗してもよいという安心・安全な雰囲気が育まれ、何事にも挑戦しようとする土壌が培われていることによると推測される。



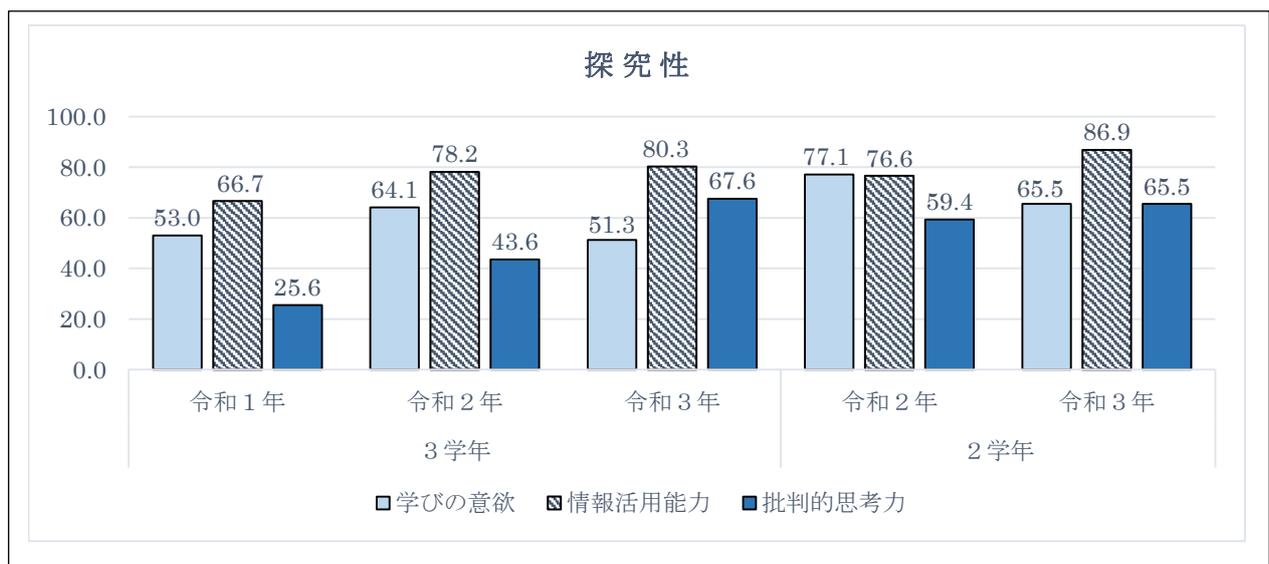
②協働性

対話力や受容力に対する問いでは、3年間を通して高い数値を維持しており、全ての授業におけるアクティブラーニング型授業を実施していることによる教育活動の影響と考えられる。特に、表現力の「友達の前で自分の意見を発表することは得意だ」という点では、学年が上がるごとに上昇している。これは、多様性を認め合うことを重視する教育活動を行ってきた結果、ありのままで自分が尊重される雰囲気が構築されてきたことによると考えられる。



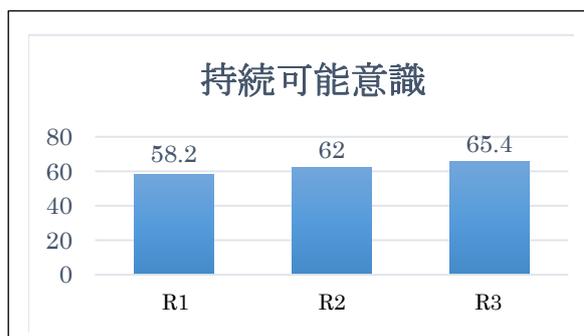
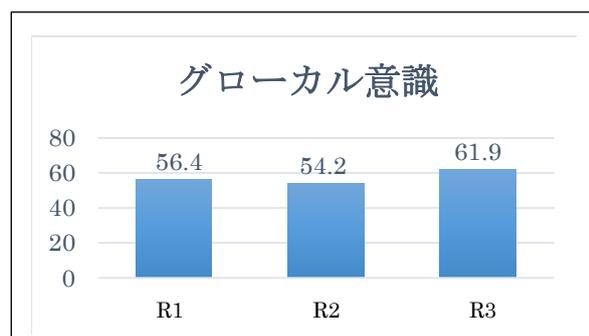
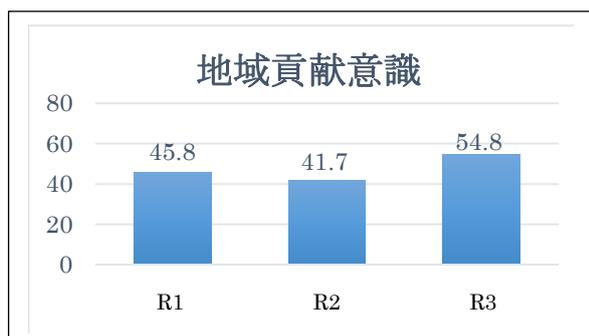
③探究性

全体として探究性に関しては肯定的な回答率は低い傾向にあった。しかし、令和元年度入学生（現3年生）や令和2年度入学生（現2年生）の回答について年を追って見ていくと、学びの意欲や情報活用能力、批判的思考力などが上昇傾向にあり、意識の変化がうかがえる。特に現3年生では、学びに対する意欲は格段に伸びており、様々な課題解決型の授業を通して、情報を勉強したことと関連付けて理解することができるようになり、生徒の思考や主体性が深められ、複雑な問題を順序だてて考えることができるようになったと推察される。



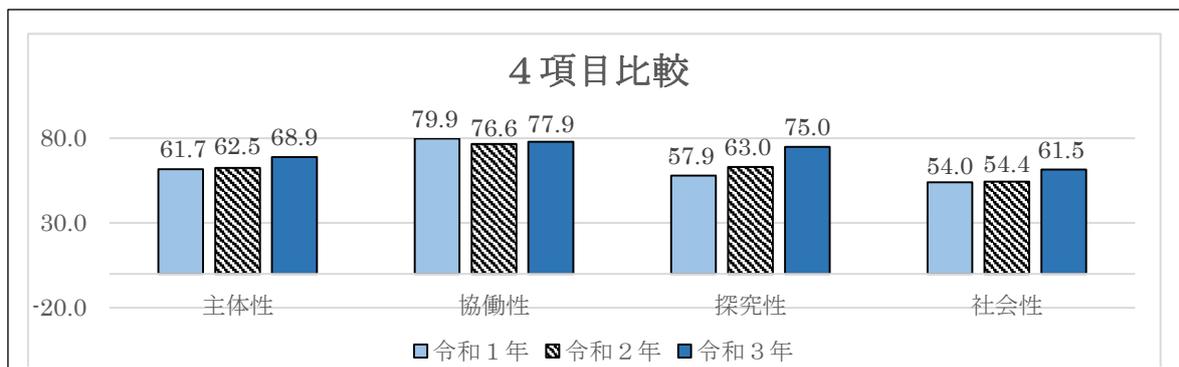
④社会性

コロナ禍における社会情勢の急激な変化から、自分の将来に対して明るい希望を持っておらず、持続可能意識は著しく低下したが、この3年間で社会性は確実に向上した。地域の外部協力機関との連携・協働で運営をしながら体験的・実践的な授業を実施したことで、生徒が地元産業の課題に気づき、理解を深め、地元への貢献意識を持つことができたと考えられる。また、地域が抱える課題に直に触れる機会を得たことで関心が高まり、今住んでいる地域で働きたいという意識の向上につながったものと考えられる。関心を持ったことについて橋渡しをしてくれる人や場所があることにより、地域貢献意識はさらに向上すると思われ、福岡ファッションインキュベータの存在は、今後より一層有用性が増すと考えられる。



⑤ 4項目比較

3年間の結果を比較すると、探究性と社会性に関する回答は低い傾向にあるが、全ての項目において肯定的な回答がみられた。元来、学年毎に意識の違いはあるが、現3年、現2年共に、昨年よりも肯定的な意見がみられるようになった。本事業で取り組んだ様々なプログラムを通して、未来を切り拓くために必要な資質や能力を身に付け、新たな時代を地域から支えることができる人材を、体験と実践を伴った探究的な学びを通して、これらが育まれたとも考えられる。本校で学んだ生徒たちが、5年後、10年後福岡を拠点にして、ファッション業界で活躍することを期待している。



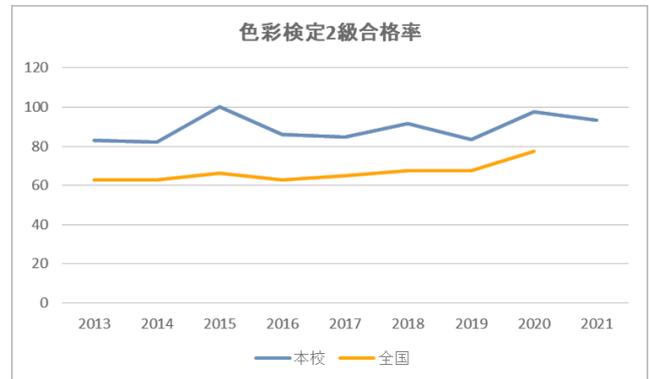
2 目標設定の到達度

本事業の実施にあたり設定していた成果目標について分析を行った。

(1) AFT色彩検定2級取得率

本校では、1年生で3級を、2年生で2級を全員が受検している。科目「ファッションデザイン」で取り扱っており、1年生は2単位、2年生は1単位で検定対策を含めた色彩に関する学習を行っている。

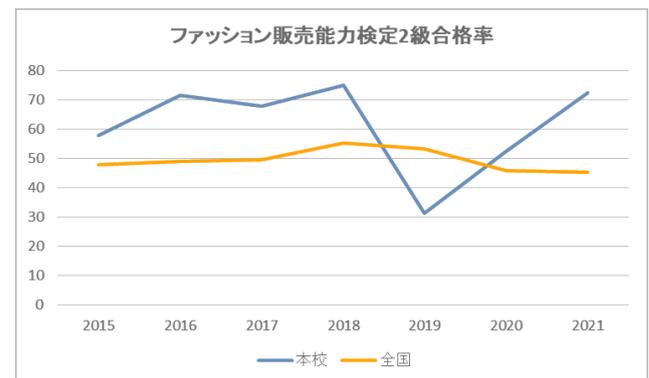
過去何度も、色彩検定協会から文部科学大臣賞や優秀団体賞の表彰を受けており、本事業で設定した目標もほぼ到達することができていることから、確かな力を付けさせることができていると評価できる。次年度からは、2年生の「ファッションデザイン」2単位は内容を精選し色彩に関する学習を充実させることとしており、これまで以上にきめ細やかな指導を行い、取得率100%を目指したい。



(2) ファッション販売能力検定2級取得率

この検定は、ファッション商品知識、販売知識、接客技術、マーケティング、VMDなどに関する専門教育を2年程度学んだレベルで、専門的な販売知識や接客技術を習得し、販売実務である程度、実績と経検を積み、臨機応変な接客対応と販売、事務処理などができるかを問うものである。学ぶことで、ファッション販売の業界で働くための専門的な知識や技術が身につくと考え、本校では2年生全員が受検をしてきた。

令和元年度（2019年）は検定試験の内容が見直された年で、問題の傾向がつかめず合格率が落ち込み、全国平均を下回ってしまっているが、その後、対策を十分に行った結果、順調に合格率を伸ばすことができた。コロナ禍で販売実習等も実施できていないため、生徒たちは販売の実務を全く経験しない中での受検であったが、よく健闘した。



(3) ブランド開発商品の売上率

昨年度は受注生産にしたため、売上率は100%であった。受注生産の最大のメリットは在庫を抱えなくてよいということである。また、お客様目線で考えると、自分のために作ってもらえるという特別感が味わえるということも挙げられる。デメリットとしては、製作する枚数が確定していないため材料をどれくらい仕入れたらよいか目途が立たず、調達が難しいことや、授業時間は決まっているため製作にかけられる時間は限定されているが、たくさん注文が入れば、それだけ時間がかかることになり、計画的に実施するのが難しいという点が挙げられた。そのため今年度は、生徒に予算を提

示し、予算内で材料を調達し製作して、赤字にならないように価格設定をさせて販売をさせた。

生徒たちは手分けして材料の価格を調査し、予算内でどのアイテムを何枚製作して、いくらかで販売すれば収益をあげられるのか検討し、価格設定を行った。

商品売るために、チラシを作成したり、SNSで発信するなどの広報活動を行ったが、現時点では売り上げに繋がっていない。広報活動を行うと、興味を持ってサイトを見て下さる方は多いが、購入には至らないのが現実である。この2年間、コロナ禍で対面での販売ができていないが、状況が改善すれば、ECサイトのみでの販売ではなく、販売実習も兼ねて、生徒が直接お客様に商品説明をしながら販売をさせたい。

(4) 高校卒業時におけるファッション関連への進路選択者の割合

下表は、令和元年～3年度の進路希望調査の結果をまとめたものであるが、多くの生徒がファッション関連の進路を選択していることがわかる。

□平成29年度入学生（令和元年度卒業生）

	ファッション	教育	語学	デザイン	家庭に関するもの	その他
3年次(1学期)	56.8%	5.4%	0.0%	8.1%	5.4%	24.3%
卒業時の進路	54.1%	2.7%	0.0%	8.1%	5.4%	29.7%

□平成30年度入学生（令和2年度卒業生）

	ファッション	教育	語学	デザイン	家庭に関するもの	その他
2年次	77.8%	2.8%	0.0%	0.0%	0.0%	19.4%
3年次(1学期)	81.8%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.2%
卒業時の進路	71.9%	0.0%	3.1%	9.4%	0.0%	15.6%

■令和元年度入学生（令和3年度卒業生）

	ファッション	教育	語学	デザイン	家庭に関するもの	その他
1年次	85.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	10.0%
2年次	66.7%	0.0%	0.0%	5.1%	10.3%	17.9%
3年次(1学期)	65.9%	0.0%	2.6%	0.0%	2.6%	28.9%
卒業時の進路	68.5%	0.0%	2.6%	0.0%	2.6%	26.3%

□令和2年度入学生（現2年生）

	ファッション	教育	語学	デザイン	家庭に関するもの	その他
1年次	75.8%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	21.2%
2年次	82.9%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%	10.3%

□令和3年度入学生（現1年生）

	ファッション	教育	語学	デザイン	家庭に関するもの	その他
1年次	89.2%	0.0%	2.7%	0.0%	0.0%	8.1%

本事業の3年間の結果だけであり、対象生徒の人数も少ないため一概には言えないが、入学時点で、多くの生徒がファッション関連の進路を希望していることから、高い志を持って本校に入学してきていることが伺える。

入学時はファッション関連の進路を希望していなかったが、卒業時にファッション関連の進路を選択した生徒もいるもののごく少数で、今年度の卒業生では、入学時にファッション関連の進路を希望していた生徒のうち2割程度がファッション関連以外の進路を選択している。生徒にも個別に様々な事情があり、ファッション関連以外の進路を選択することを否定することはできないが、入学時の志や3年間の学びを次のステージに繋げることができなかつたことは非常に残念である。

(5) ファッション関連への進路選択者の中で、将来地元福岡での就職を希望する生徒の割合

右表の網掛けの部分、今年度の卒業生の結果であるが、学年が上がるにつれて、将来地元福岡での就職を希望する割合が増えている。現2年生にも同じ傾向がみられるが、東京や海外で活躍する姿を夢見て入学してきた生徒たちが、地元企業等との協働事業等を通して、地元の魅力を感じ、地元で自分の力を発揮したいと考えるようになったのであれば、本事業の成果であるといえるが、現時点では推測にすぎない。

年度	3年	2年	1年
令和元年度	50.0%	42.9%	14.7%
令和2年度	17.4%	26.9%	40.0%
令和3年度	42.3%	50.0%	27.2%

(6) 運営指導委員会、コンソーシアム代表者会議、研究推進委員会の実施回数

コロナ禍で、オンラインで実施することが多かったが、ほぼ年度当初立てた予定通りに実施をすることができた。

会議名	実績	予定
運営指導委員会	2回	2回
コンソーシアム会議	6回	7回
研究推進委員会	12回	12回

校内の研究推進委員会を、月1回実施したことで、事業の進捗状況を共有し、コンソーシアム会議の中でいただいたご意見等を教育活動に反映させることができた。1ヶ月という短いスパンで業務内容を見直したり、課題をまとめてコンソーシアム会議に提案することができ、うまく機能させることができたと感じている。

また、11月には福岡ファッションインキュベータ会議を実施し、協力機関の代表者の方にお集まりいただき、1年間の活動報告を行った。この会議については、次年度からは福岡ファッションインキュベータ事務局主催で実施することとなるが、継続していきたい。

(7) 地場産業と協働で行う事業の回数（ファッションショー等）

以前、商業施設等で実施させていただいていた事業は今年度も実施することができなかつたが、福岡ファッションインキュベータの協力もあり、多くの事業を実施することができた。

- ① コースターの縫製及びデザインの考案（「なのみ工芸」との協働事業）
- ② トラックフェス（主催：福岡県トラック協会）での女性ドライバーのユニフォームの提案
- ③ リメイクコンテスト（「ブックオフ」とのコラボレーション企画）
- ④ キルト&ハンドメイドフェア（主催：「かすや6町キルトの会」）でのファッションショー

- ⑤地域の文化祭（主催：アイランドアイ）での作品展示
- ⑥箱崎JKプロジェクト（福岡リーセントホテルとのコラボレーション事業）
 - ※展示・物販及びファッションショー
- ⑦FFI Fashion day2022（主催：福岡ファッションインキュベータ）にモデルとして参加
- ⑧貴賓館での作品展

福岡ファッションインキュベータの協力機関との協働事業等については、教育課程に位置づけることができおり、次年度以降も継続して実施をしていく予定である。新型コロナウイルス感染防止のため中止となった事業については、今後状況の改善に応じて実施を検討したい。

（8）コンソーシアムの構成メンバー数

本事業の計画策定時には、地域課題の解決や探究的な学びを実現する組織体をコンソーシアムとして毎年拡大していくことを目標として設定していたが、事業構想を検討する組織と探究的な学びを実践するための協力機関を分け、前者をコンソーシアムとして運営してきた。申請時は、3年次には20名に拡大することを目標としていたが、1年次は7名、2年次と3年次は10名にご協力いただいた。

コンソーシアムは本事業終了に伴い解散することになるが、メンバーの皆様には、今後も情報提供や指導・助言をいただければ幸いである。

（9）外部人材の登用回数

実施内容（1）にも記載しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりながら、可能な限り実施をした。計画したものの、直前になり中止を余儀なくされたものもあり、今後状況が改善したら、実施していきたい。

【別紙様式7】

ふりがな	ふくおかけんりつつかいこうどうがっこう	令和元年度～令和3年度
学校名	福岡県立香椎高等学校	指定期間

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標達成率2年度
〔卒業時に生徒が習得すべき具体的な能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標〕							単位：%
AFT 色彩技術検定2級取得率							
a	本事業対象生徒：	85	90	90	95		93.1
	本事業対象生徒以外：						
目標設定の考え方：フアンクションに関する資質・能力の習得向上を測る。							
〔卒業時に生徒が習得すべき具体的な能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標〕							単位：%
フアンクション販売能力検定2級取得率							
a	本事業対象生徒：	65	70	75			72.4
	本事業対象生徒以外：						
目標設定の考え方：フアンクションに関する資質・能力の習得向上を測る。							
〔卒業時に生徒が習得すべき具体的な能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標〕							単位：%
ブランド開発商品の売上率							
a	本事業対象生徒：	70	80	80	90		0
	本事業対象生徒以外：						
目標設定の考え方：商品の企画、製作、販売と消費者のニーズとの適合性について測る。							
〔その他本構想における取組の達成目標〕(成果目標)							単位：%
高校卒業時ににおけるフアンクション関連への進路選択者の割合							
b	本事業対象生徒：	70	75	80			68.4
	本事業対象生徒以外：						
目標設定の考え方：本事業（カリキュラム開発、体験活動、探究的な活動など）の効果測定。							
〔高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標〕							単位：%
フアンクション関連への進路選択者の中で、将来地元福岡での就業を希望する生徒の割合							
c	本事業対象生徒：	70	75	80			42.3
	本事業対象生徒以外：						
目標設定の考え方：本事業（カリキュラム開発、体験活動、探究的な活動など）の効果測定。							

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）							目標達成率2年度
〔地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標〕		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
運営指導委員会、コンソーシアム代表者会議、研究推進委員会の実施回数							単位：回
a	目標設定の考え方：組織や運営を検討するために適切な設定をする。			11	13	15	20
〔普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標〕							単位：回
地域産業と協働で行う事業の回数（フアンクションジョー等）				5	6	7	8
b	目標設定の考え方：内容の充実とともに、地域産業と協働した企画・運営の機会の保持に努める。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）							目標達成率2年度
〔地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標〕		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
コンソーシアムの構成メンバー数							単位：社
a	目標設定の考え方：コンソーシアムの規模の拡大に努める。			15	18	20	10
〔その他本構想における取組の具体的指標〕							単位：回
外部人材の登用回数				30	35	40	44
d							38

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
全校生徒数(人)			1,103	1,039	1,054
本事業対象生徒数			114	105	105
本事業対象外生徒数			989	934	949

VI 本事業の成果と今後の展望

1 高度な資質を身につけた人材の育成

本校ファッションデザイン科は、被服科としてスタートし、時代の変化や社会のニーズに対応しながら、服飾デザイン科を経てファッションデザイン科となった経緯があり、「縫製」を中心に据えた教育活動を行ってきた。また、「縫製」だけでなく、激しく変化する社会のニーズに応じた専門性の向上にも努めている。

全国高等学校家庭科被服製作技術検定や色彩検定・サービス接客検定・ファッション販売能力検定等の資格取得に向けての取組では好成績を収めており、高度な知識・技術を習得することができている。また、外部講師等による多くの特別授業や協力機関との協働事業を通して、プロフェッショナル人材から直接指導を受けることで、知識・技術の習得だけでなく、自分の適性を見極め、職業観を高めることもできている。

将来、ファッション業界で活躍する人材を育成するためには、目まぐるしく変化する社会の動きに対応したスキルを身に付けさせる必要がある。数年先を見据えて、必要とされるスキルの変化を見極めながら指導をしていく必要がある。また、生徒に高度な資質を身に付けさせるために、教員は常に指導力の向上に努めることが必要である。

2 カリキュラムの構築

本校は平成28年度から30年度までの3年間、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの研究指定を受け、高度な資質・能力を育む産学接続型教育プログラムを開発し、実施してきた。表1は、本事業で設立した「福岡ファッションインキュベータ」を活用して新たに開発した外部協力機関と連携・協働した実践的な学習活動の一覧である。コロナ禍にも関わらず、多くのご支援をいただき、様々な活動を行うことができた。また、表2はこれらの活動を令和4年度の教育課程表の中に示したものである。このように、3年間を見通して取扱う科目や実施時期を検討して年間指導計画の中に位置づけ、本校独自の新しいカリキュラムを構築することができた。

次年度からの新教育課程の施行に合わせて、「商品企画実習」に特化した科目として学校設定科目「ファッションビジネス」を新設しており、事業終了後も開発した教育活動を円滑に継続して実施することができる体制を整えることができた。

新しく構築したカリキュラムを実施していくにあたって、人的支援は整ったが、「商品企画実習」等で必要になる財源の確保ができていない。本校では長年、服飾手芸等で生徒が製作した作品を文化祭で販売し、その売り上げを翌年の実習費とすることで販売実習を継続してきた。昨年度は、文化祭を実施することができなかったが、福岡リーセントホテルで物販をさせていただいたため、その売り上げを今年度の実習費に充てることができた。現時点では、これまで通り物販の売上金を循環させて実習ができているが、3年前から「商品企画実習」でECサイトでの販売を開始したことで、以前よりも経費がかかるようになっており、今後、準備した商品が売れなければ、十分な資金を捻出することができない可能性も出てきている。

今後実習を継続していくための資金について、昨年度県教育委員会にも相談し、検討してみたが、解

決策を見いだすことができず、早急に何らかの対策を考えなければならない。

表1 令和3年度「福岡ファッションインキュベータ」を活用した学習活動一覧

	内容	実施科目	実施時期	協力機関
3年	<input type="checkbox"/> トレンドセミナー ・WWD 編集長によるトレンドセミナーをオンラインで視聴	ファッションデザイン (産業)	5月	香蘭ファッションデザイン専門学校
	<input type="checkbox"/> 現場見学 ・アパレル企業の企画室および縫製工場見学	課題研究	夏季休業中	小竹正株式会社
	<input type="checkbox"/> リメイクコンテスト ・グループで古着をアップサイクルしてコンテストを実施	ファッションデザイン (産業)	9~10月	ブックオフ
	<input type="checkbox"/> 商品企画実習 ・Eコマースについての講義 ・ECサイトおよび広報用の写真撮影	ファッションデザイン (商品企画)	2学期	株式会社 WEBUO
	<input type="checkbox"/> ねこコースター ・コースターの縫製業務 ・オリジナルコースターの提案	ファッションデザイン (選択)	5~6月	障害福祉サービス事業所のみみ芸
2年	<input type="checkbox"/> 箱崎 JK プロジェクト ファッションショー ・「おいしいとおしゃれ」をテーマに、食事 (ランチ) の後にショーを実施 ・チラシの作成、広報活動、テーブルコーディネート	ファッションデザイン (産業)	12月	福岡リーセントホテル
	<input type="checkbox"/> ANREALAGE セミナー ・デザイナーによる講演をオンラインで視聴	服飾文化	5月	香蘭ファッションデザイン専門学校
	<input type="checkbox"/> 箱崎 JK プロジェクト 物販・展示 ・ホテルスペースを利用して、物販および作品展示 ・チラシの作成、PR動画の作成	総合的な探究の時間	9~12月	福岡リーセントホテル
1年	<input type="checkbox"/> 芸術鑑賞 ・ミュージカルの稽古の様子の見学、質疑応答	※	2月	アイランドアイ
	<input type="checkbox"/> 業界セミナー ・ファッション業界の職種等についての講義	生活産業基礎	10月	大村美容ファッション専門学校
全学年	<input type="checkbox"/> オンデマンド研修 ・コミュニケーションスキルと接客やチーム形成の基礎	生活産業基礎	1月	ワールドストアパートナーズ
	<input type="checkbox"/> プログラムの構築・内容の検討 ・実施内容についての助言・指導	※	通年	進路指導・キャリア教育支援機構
	<input type="checkbox"/> 作品展示 ・地域の文化祭参加	※	11月	アイランドアイ
	<input type="checkbox"/> FFI Online Fashionday 2022 収録会 ・FFI 主催事業で、ショーのモデルとして参加および会場で観覧	※	12月	株式会社 WEBUO、香蘭ファッションデザイン専門学校、福岡デザイン&テクノロジー専門学校

※芸術鑑賞については中止となった

表2 令和4年度「福岡ファッションインキュベータ」の活用予定

	R4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
R4 入学生	1年	家庭基礎	生活産業基礎	ファッション造形基礎	ファッション造形	ファッションデザイン	ファッションビジネス	服飾手芸	現代文B	現代の国語	言語文化	地理総合	数学I	体育	保健	英語I	英語コミュニケーションI	情報I	HR																	
R3 入学生	2年	生活産業情報	服飾文化	ファッション造形	ファッションデザイン	ファッションビジネス	ファッションデザイン	服飾手芸	現代文B	古典B	世界史A	数学A	人間生活	科学I	体育	保健	美術I	コミュニケーション英語II	総合的な探究の時間	HR																
R2 入学生	3年	課題研究	ファッション造形	ファッションデザイン	ファッションデザイン	ファッションビジネス	ファッションデザイン	服飾手芸	現代文B	美術II	服飾手芸	現代文B	古典B	日本史A	生物基礎	体育	コミュニケーション英語III	HR																		

★大村美容ファッション専門学校「業界セミナー」(1学期中)

★(未定)「インターンシップ」(長期休業中?)

★ワールドストアパートナーズ「販売知識」(3学期)

「インターンシップ」

★ワールドストアパートナーズ

★福岡リーセントホテル

・アドベンチャー (1~2学期)

★ブックオフ「リメイクコンテスト」(随時)

★福岡リーセントホテル「ファッションショー」(12月)

★株式会社 WEBUO「Eコマース」(随時)

★のみみ芸「商品企画演習」「ねこコースター」(1学期)

★福岡リーセントホテル「商品製作」(2学期)

★: FFI 協力団体

3 福岡ファッションインキュベータについて

令和2年11月に福岡ファッションインキュベータを設立し、今年度は試行期間として運用を開始し、特別授業や協働事業を実施することによる高校生を対象とした人材育成システムとしての機能には見通しが立った。将来的には、高校卒業後数年経った後でも、福岡でブランドを立ち上げたり起業をしたりしたいと考えたときには支援が受けられ、福岡のファッション業界活性化のプラットフォームとなることを目指しており、さらには卒業生が高校生を支援するという好循環が生まれることを期待している。福岡のファッション業界活性化のプラットフォームとなるための機能については、本事業の研究開発名にもある2030年を目途に具体的な数値目標を設定し、3年ごとに検証しながら取り組んでいきたいと考えている。

現在、福岡ファッションインキュベータの事務局は本校内に設置しているが、教員が通常の業務を行いながら事務局業務を行うことは現実的ではなく、今後この組織をスムーズに運営していくために、事務局を民間企業に担っていただく方向で準備を進めている。また、この組織を維持していくためには、マンパワーだけではなく資金も必要となるため、収益を伴う福岡ファッションインキュベータ主催事業を実施したりスポンサーを募ったりするなど、資金捻出の手立てを考える必要がある。

福岡ファッションインキュベータは当初、本校生徒を支援するために設立したが、今後は県下の服飾を学ぶ高校生全体へ支援の対象を拡大し、福岡県全体でファッション教育の活性化を図っていきたいと考えている。そのためには、まずは本校が福岡ファッションインキュベータの活用モデルとなり他校への周知を行うことで、活用を促したい。また、設立時は6団体であった協力機関は14団体に拡大しており、今後もアパレル企業を中心にさらなる拡大を目指していきたい。

4 福岡のファッション業界を担う人材の育成について

2年前のMUFG高校魅力化評価システムの結果によると、本校生徒は全国的にみると社会性が低かったが、この3年間で徐々に向上してきた。最も顕著にみられたのは地域貢献意識の向上であるが、これは、本事業で多くの協力機関と連携・協働し、地域課題に目を向けるようになり、誰かの役に立つという経験をしたことが大きく影響したと分析している。

毎年生徒たちに進路希望調査を行っているが、ファッション関係の進路を希望している生徒の「将来就きたい職業」を入学時と卒業時で比較してみると、入学時はファッションデザイナーやメイクアップアーティスト、スタイリストなど7種類であったが、卒業時はブランドプロデューサーやバイヤー、縫製業などが加わり、14種類に増加していた。入学時点ではファッション業界にどのような職種があるかの知識が少なかったが、この3年間で視野が広がりファッション業界には様々な職種があることを知り、その中から興味のあるものや自分の適性に合ったものを見出したためと分析している。

高等学校在学中に、自分の適性を知り就職時のマッチングミスを防ぐために、福岡ファッションインキュベータの協力機関にご協力いただき、現場での実習等のプログラムの実施を検討していたが、コロナ禍で実施することはできなかった。現時点ではまだ見通しがたたないが、状況が落ち着いたら、1年次に「生活産業基礎」でファッションに関する職業について学習し視野を広げた後、「企画」「縫製」「経営」「販売」の4分野で現場見学や実習等を実施し、自分の適性に合った進路選択をさせたい。また、生徒の適性を客観的に判断するために、職業適性検査等の活用も検討したい。

